

(仮称) 聖徳記念絵画館前整備事業

---

第82回新宿区景観まちづくり審議会

[報告2] 資料

2026.2.12

■ 上位計画の中のエリアの位置づけ

神宮外苑地区のまちづくり指針 (H30.10)

景観形成の方針

- ・ 地区内の場所や施設の特徴を生かし、**歴史性などにも配慮した景観**を形成します。
- ・ みどりによる統一感のある景観及び夜間における景観の形成をします。
- ・ **聖徳記念絵画館を中心とした広大な眺めを保全**します。

都市づくりのグランドデザイン (H29.9)

- ・ 都心の大規模公園などを生かした**緑の軸が形成され、絵画館などを中心とする風格のある景観**を背景に、ジョギング、サイクリング、散策、周辺のカフェや店舗など、楽しみのある、緑豊かで快適な空間を形成します。

神宮外苑地区地区計画 (都市計画決定 H25.6)

- ・ 成熟した都市・東京の新しい魅力となるまちづくりを推進します。
- ・ 首都東京の顔にふさわしい緑豊かで**風格と活力を兼ね備えた魅力的なまち**になります。
- ・ 誰もが利用しやすく、安全・安心で快適なまちになります。

東京都景観計画 (H30.8改訂)

- ・ 絵画館及び国会議事堂の眺望の保全に関する**景観誘導**

新宿区まちづくり戦略プラン (H29.12)

- ・ 神宮外苑のみどり、聖徳記念絵画館など**地域特性を踏まえた新たな景観**を形成するとともに、**風格ある都市の風致**を図ります。

港区まちづくりマスタープラン (H29.3)

赤坂地区のまちづくりの方針

- ・ 聖徳記念絵画館や迎賓館、国会議事堂の周辺においては**首都東京を象徴するランドマークへの配慮を誘導し、風格ある景観を創出**します。

新宿区景観まちづくり計画 (H28.3改訂)

良好な景観の形成に関する方針

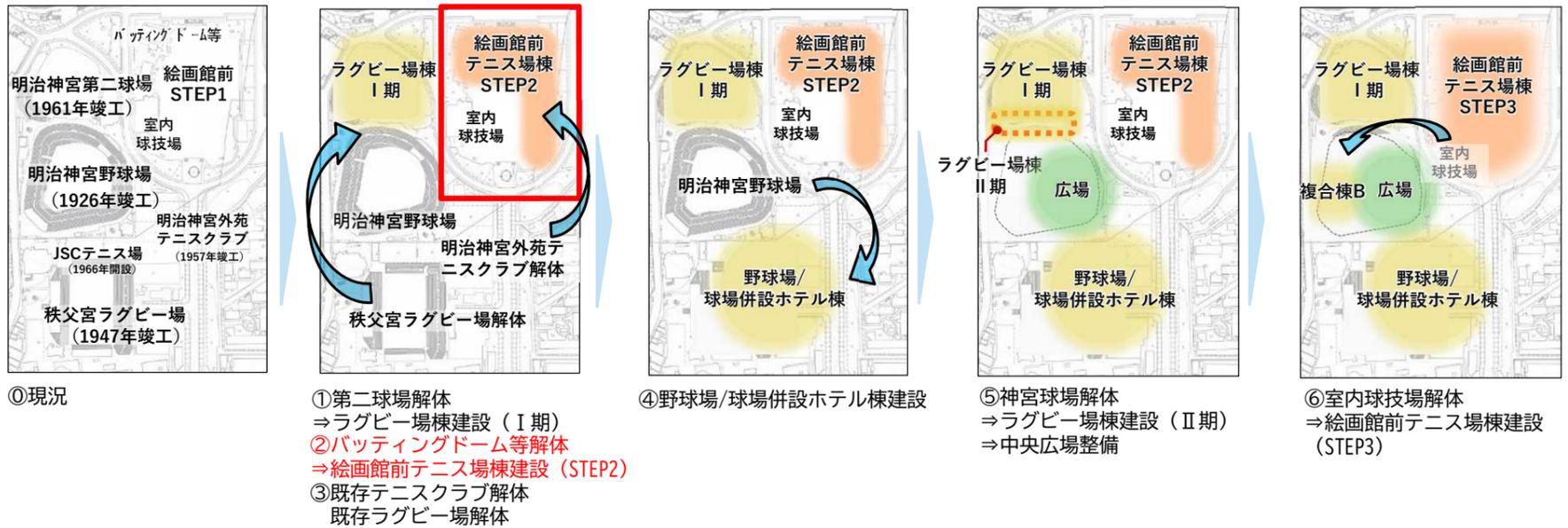
- ・ 聖徳記念絵画館や迎賓館および新宿御苑からの眺望を**保全**します。

港区景観計画 (H27.12)

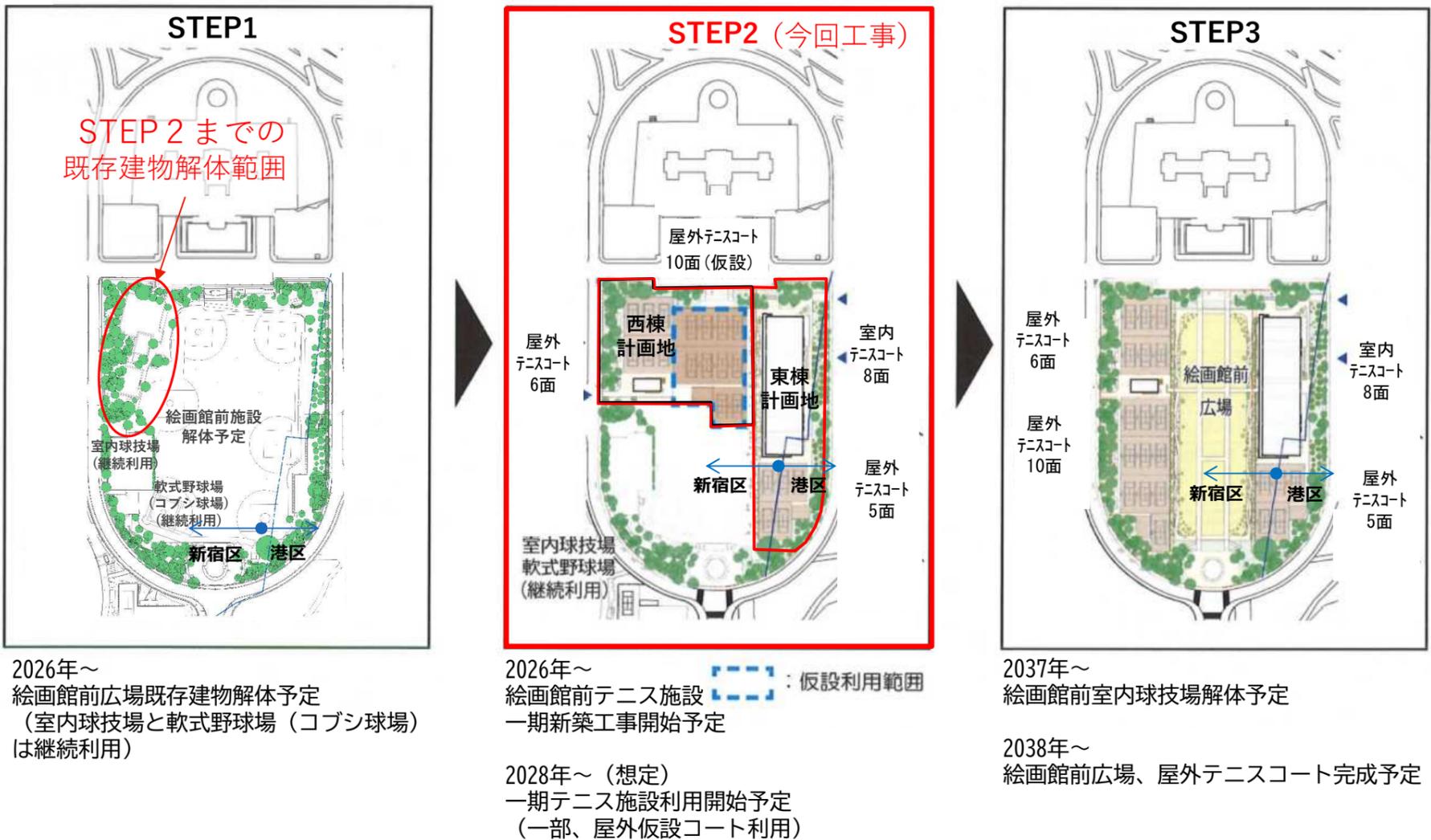
神宮外苑いちょう並木周辺景観形成特別地区

- ・ 聖徳記念絵画館の**風格を際立たせるいちょう並木のスカイライン**を守ります。
- ・ 並木の公園として、ゆったりとくつろぎ、心地よく歩ける空間を創出します。
- ・ いちょう並木の**ゲートとしての風格**を備えた交差点を演出します。

■ 段階的な建替え



■ 絵画館前エリアのSTEP図



※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

東京都、区の要請による変更内容

- ・2022年5月、2023年9月に東京都から、加えて新宿区、港区から要請を受け、2024年9月に示した計画地内の緑地保全を反映しました。
- ・変更後の計画は建物外形の縮小と配置計画等を工夫することにより外周植栽の伐採樹木を削減し保存樹木を増やしました。
- また、広場とテニス場棟の緩衝帯となる緑地の拡幅・植栽増加により敷地全体として豊かな空間の創出に繋げ、ビスタ景にも配慮します。

景観協議による変更内容

- ・高さは必要最低限の約14.6mとします。
- ・ハイサイドライトとし、ボリュームの分節化、風景の映り込みで景観に溶け込ませます。
- ・ヴォールト屋根を内側にセットバックしボリューム感を緩和します。
- ・屋根色をダークグレー（基本色）とし存在感を低減します。
- ・外壁は左官仕上げとし、自然な風合いで格調と落ち着きある色合いとします。



変更前

※上位計画である東京都市計画神宮外苑地区地区計画に基づき、本エリアはスポーツ文化交流施設を有する方針が定められております。

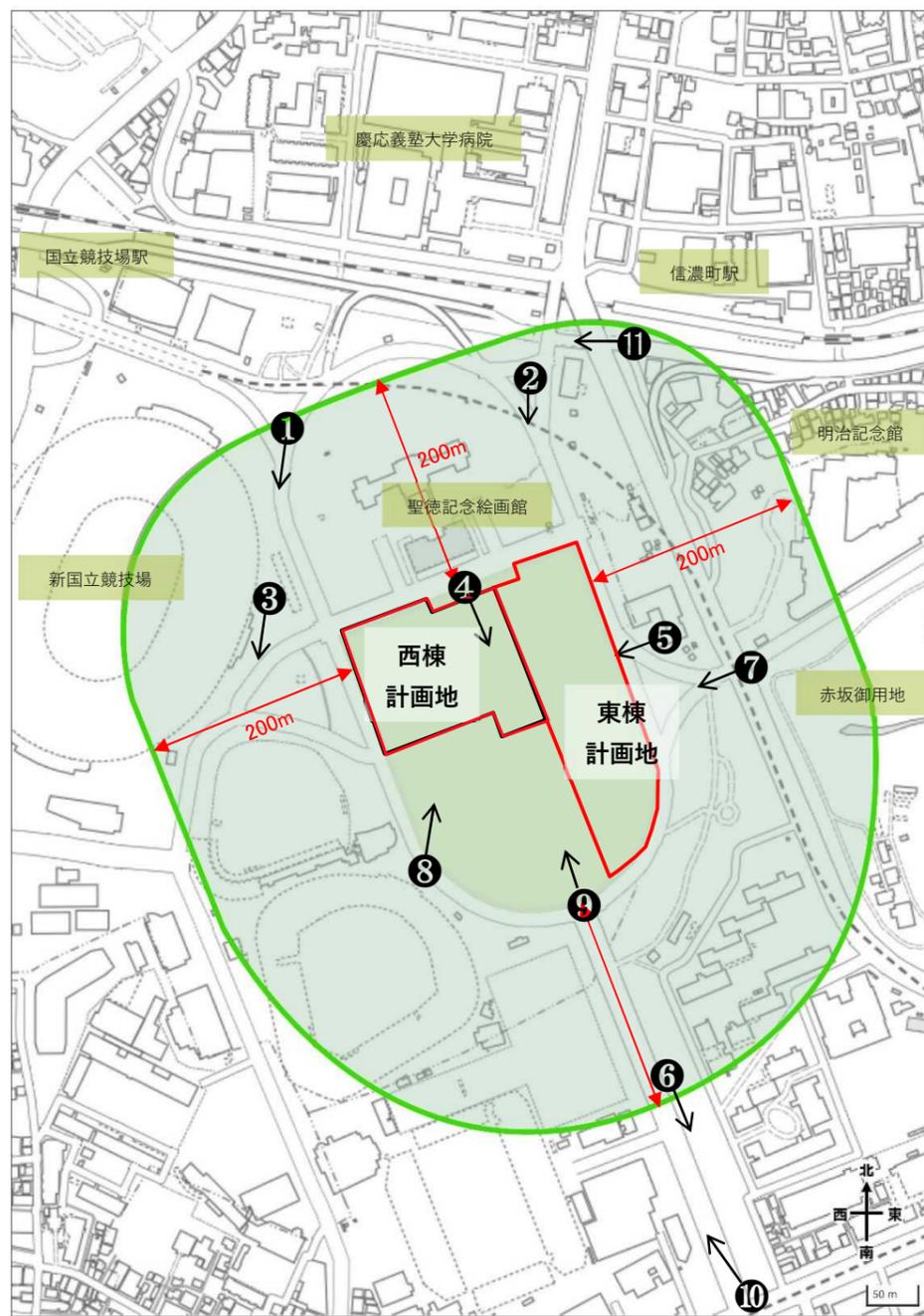
変更後

■計画概要 (STEP2)	東棟	西棟
景観条例届出対象建築物の用途	スポーツの練習場、コートベンチ、自動車庫、倉庫	スポーツの練習場、コートベンチ、倉庫
敷地面積	約19,500㎡	約17,700㎡
建築面積	約6,000㎡	約600㎡
延床面積	約12,000㎡	約600㎡
容積率(指定容積率)	約49.1%(200%)	約3.3%(200%)
建蔽率(基準建蔽率)	約30.3%(40%)	約3.3%(40%)
建物高さ(平均値盤面からの高さ)	14.6m	6m
階数	地上3階	地上1階

■工程表 (STEP2)

2025年								2026年								2027年								2028年	
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			
新宿区景観事前								新宿区景観条例								企業提案書見直し報告								竣工	
								東京都景観条例								建築基準法48条のただし書き許可									
								確認申請								工事期間									

※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。



[凡例] ● 眺望点

出典: 国土地理院地図

**① 北西側円周道路**  
 国立競技場と聖徳記念絵画館、周辺の樹木が生い茂る場所で、車の通行が多い。国立競技場でイベントが開催される際は多くの人々がつどい賑やかである。



**② 北東側円周道路**  
 JR信濃町駅前から外苑に向かう沿道は、車両の通行も多いが緑豊かな環境が広がる。全体として、自然と都市が調和した魅力的なエリアである。



**③ 国立競技場前遊歩道**  
 外構散策が可能な遊歩道には、過去2回開催された東京オリンピックの炬火台、聖火台、壁画などスポーツレガシーを身近に感じられるオブジェが配置されており、わが国のスポーツが育んできた歴史や文化が感じられる場所になっている。



**④ 聖徳記念絵画館前**  
 神宮外苑創建時からある円周道路から一步入り、絵画館前からいちょう並木方面又は、野球場方面を望む。フェンスで仕切られており出入りはできないが、遮蔽物がなくいちょう並木まで一望できる開けた空間となっている。



**⑤ 東側円周道路**  
 神宮外苑円周道路の歩道から望む。円周道路沿いには樹木が茂っており、深い木々の緑と空の青のコントラストを感じることができる憩いの歩行空間となっている。



**⑥ 外苑のいちょう並木**  
 4列に配置された堂々たる樹形のいちょう並木が明治神宮外苑の魅力を決定づけている。散策の心地よさ、連続の爽快感に加え、通りの飲食店の賑わいも都市空間を彩っている。



**⑦ 権田原交差点エリア**  
 車両の往来も多く、交通の要所となっている。神宮外苑の円周道路沿いは樹木が茂り、明治神宮内苑から明治記念館をつなぐ横軸を形成している。



**⑧ 西側円周道路**  
 明治神宮野球場前歩道から計画地南側に広がる緑地を望む。東側と同様に、歩道沿いの樹木や緑陰等の豊かな自然を感じられる場所となっている。



**⑨ 聖徳記念絵画館前(ビスタ視点)**  
 広場は複数面の野球場等として使用されて視線を遮る要素がなく、開けた空間となっている。一方でフェンスで仕切られているため、自由な行き来はできない。



**⑩ 外苑青山口**  
 いちょう並木が一直線に伸び美しい景観軸を形成している。この軸線上に象徴的な聖徳記念絵画館があり、街路、並木、建物が一体となった見事な配列が東京を代表する都市空間を形成している。



**⑪ 信濃町駅周辺**  
 慶応義塾大学病院、三井ガーデンホテル等が望める。外苑方面へ向かうにつれて、緑が多くなり、緑道や都市公園的要素が強くなる。



※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

■STEP 2 配置・外構計画

○屋内テニスコート棟、屋外テニスコート、壁打ちコート

- ・ 8面の屋内テニスコートを有する、3階建てのテニスコート棟と計21面の屋外テニスコートを計画し、既存のテニス施設と同じ面数を確保します。(一部仮設屋外テニスコート)
- ・ 屋外テニスコートは環境に優しく蓄雨性能が高い天然のクレイコートを計画します。

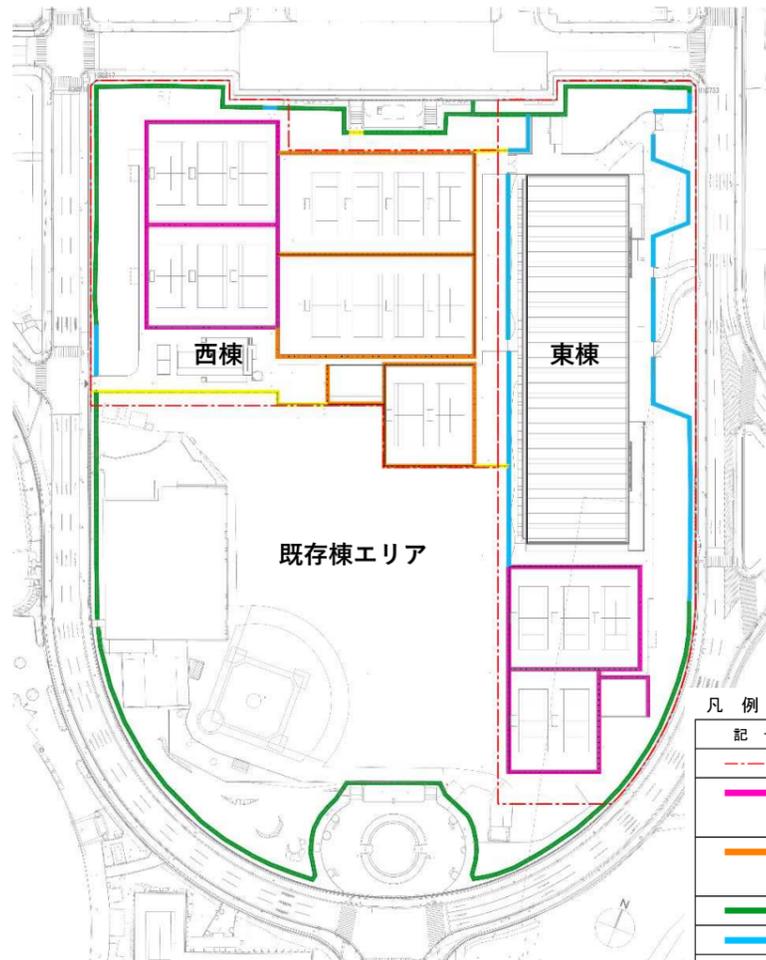
○駐車場計画

- ・ 駐車場附置義務対応のため、また野球場利用時に絵画館の既存駐車場が必要となるため、本計画地には駐車場を確保する必要があります。

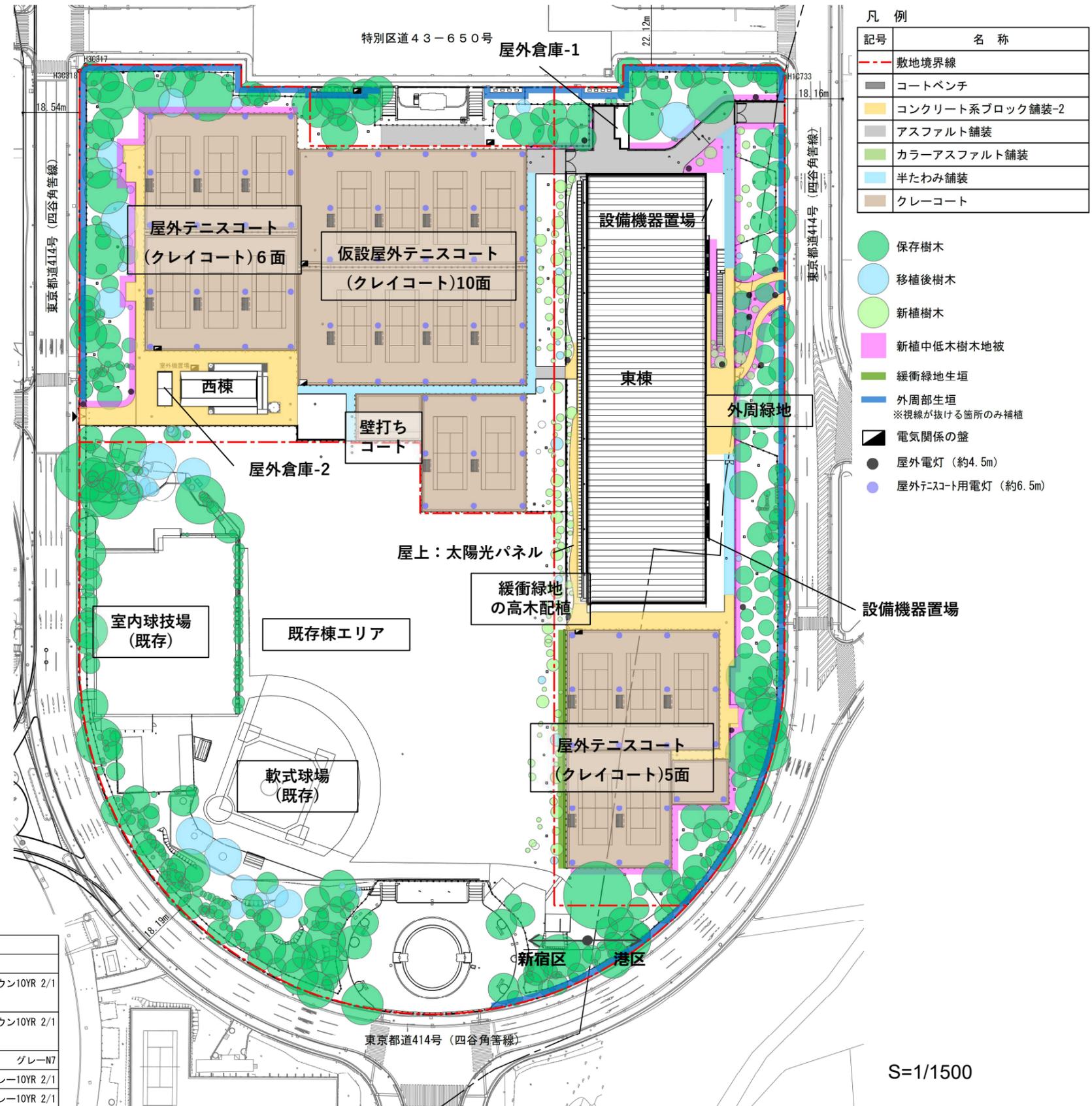
○既存建物（室内球技場、軟式球場）

- ・ 室内球技場の貸出し事業などの継続性に配慮し、既存の軟式球場及び、室内球技場を残置します。

■フェンス範囲図



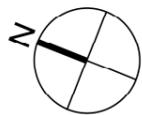
記号	名称
---	敷地境界線
■	防球フェンス(H=4.0m) ダークブラウン10YR 2/1 下部防砂ネット付(H=1.8m)
■	仮設防球フェンス(H=4.0m) ダークブラウン10YR 2/1 下部防砂ネット付(H=1.8m)
■	既存セキュリティフェンス(H=1.5m) グレーN7
■	セキュリティフェンス(H=1.5m) グレー10YR 2/1
■	仮設セキュリティフェンス(H=1.5m) グレー10YR 2/1



記号	名称
---	敷地境界線
■	コートベンチ
■	コンクリート系ブロック舗装-2
■	アスファルト舗装
■	カラーアスファルト舗装
■	半たわみ舗装
■	クレイコート

- 保存樹木
- 移植後樹木
- 新植樹木
- 新植中低木樹木地被
- 緩衝緑地生垣
- 外周部生垣 ※視線が抜ける箇所のみ補植
- 電気関係の盤
- 屋外電灯(約4.5m)
- 屋外テニスコート用電灯(約6.5m)

※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

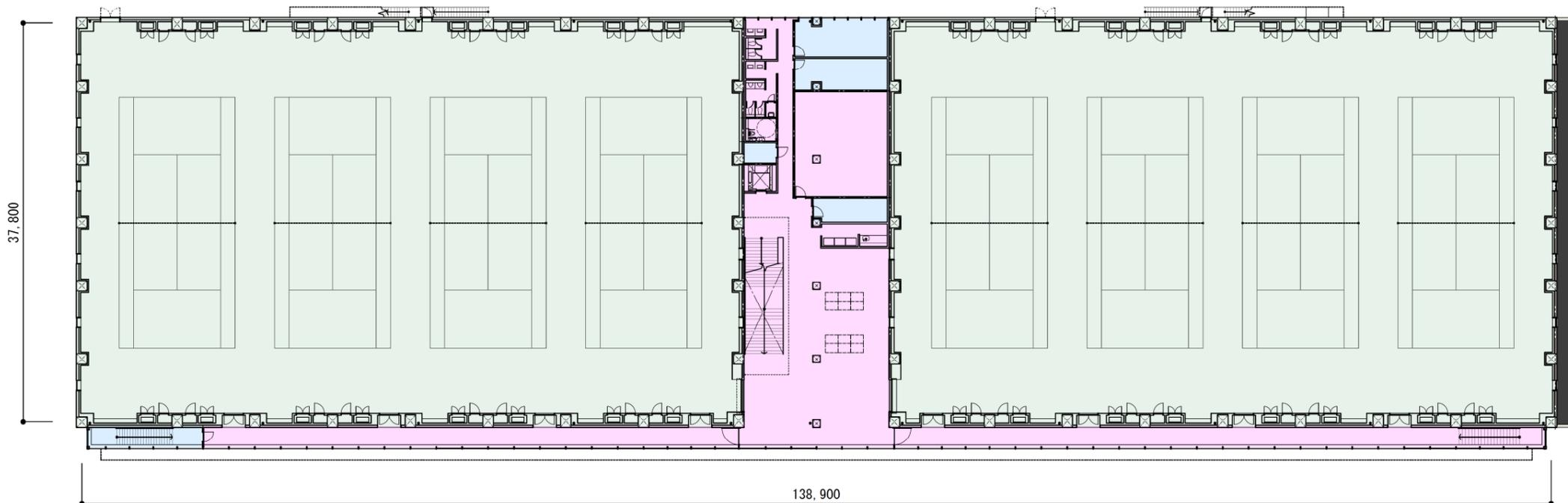


[ゾーン分け凡例]

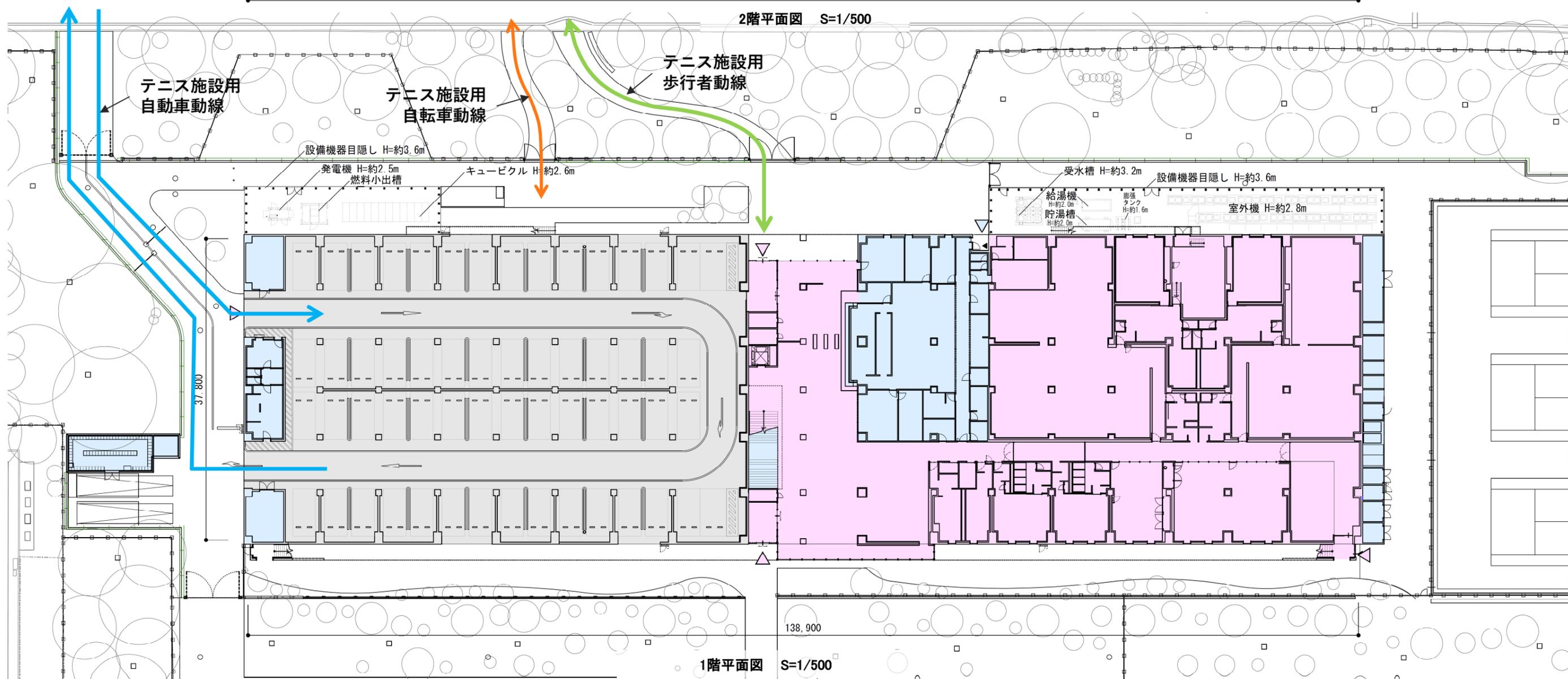
- : 施設利用者
- : 運営関係者
- : 駐車場・車路
- : 屋内テニスコート

[入口凡例]

- : 施設利用者
- : 運営関係者

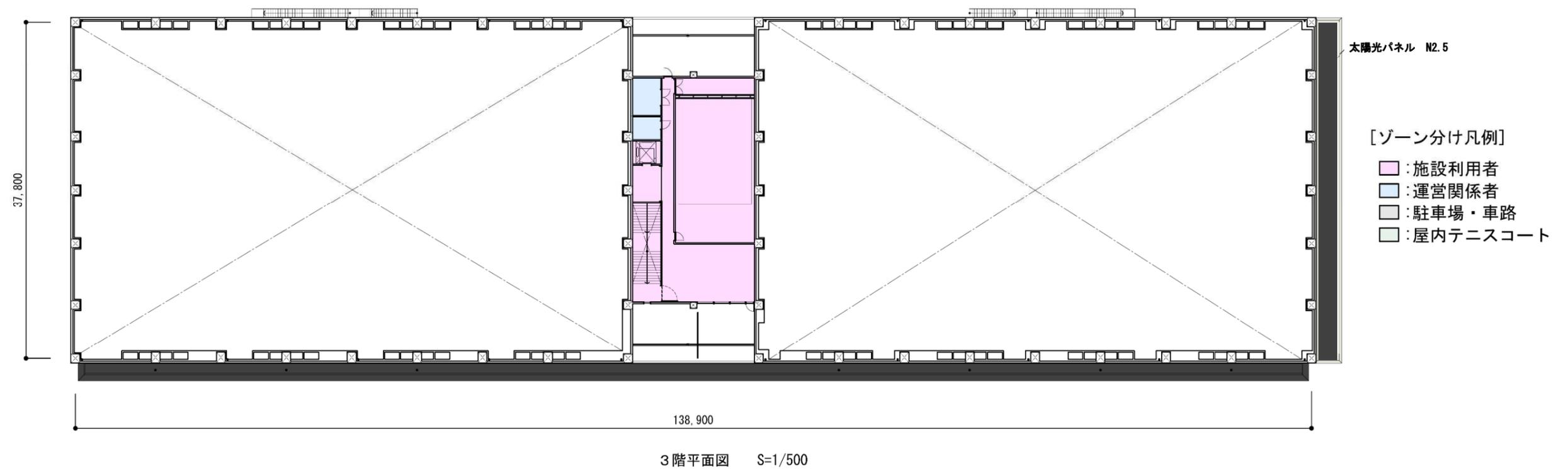
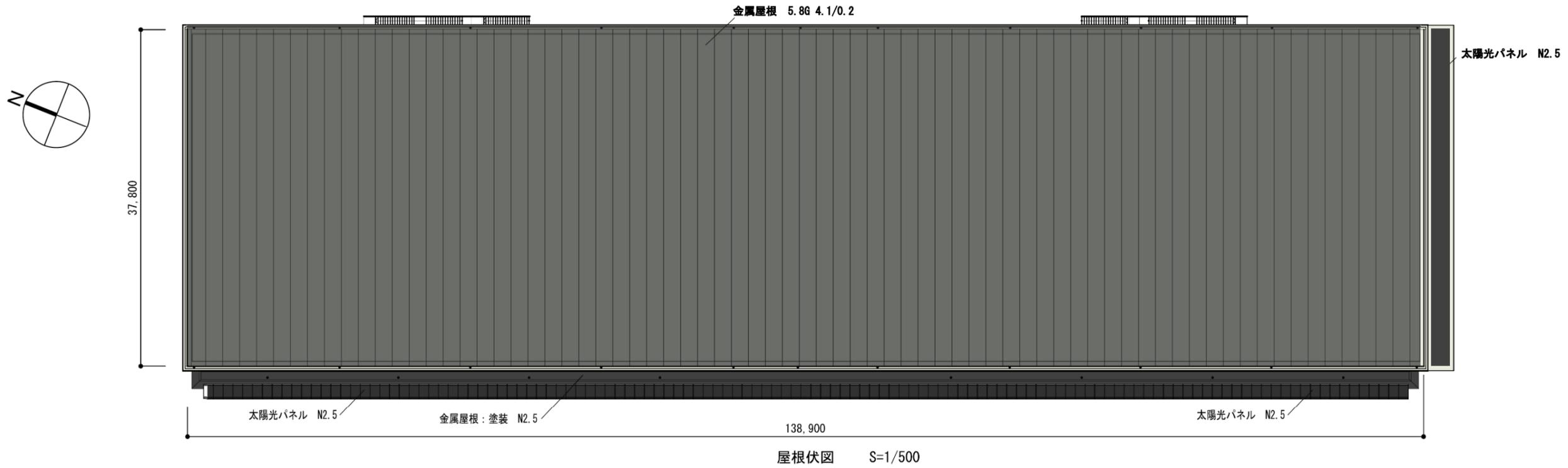


2階平面図 S=1/500



1階平面図 S=1/500

※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

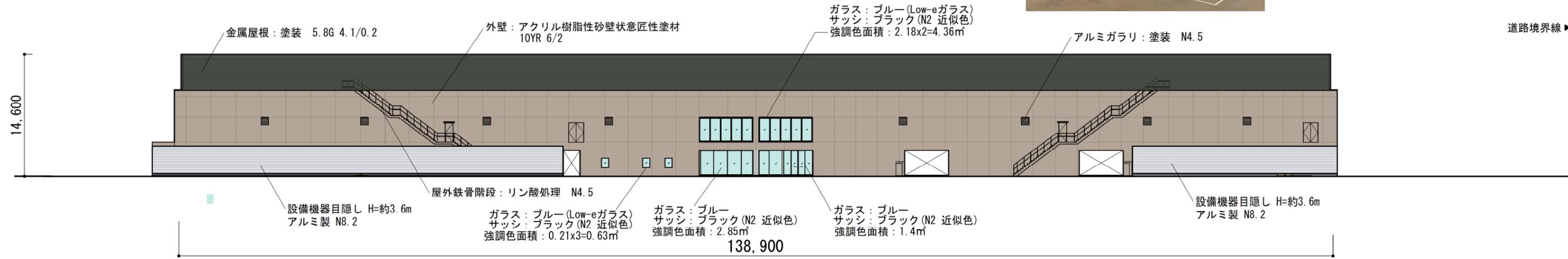


## ■ 外観カラーコンセプト

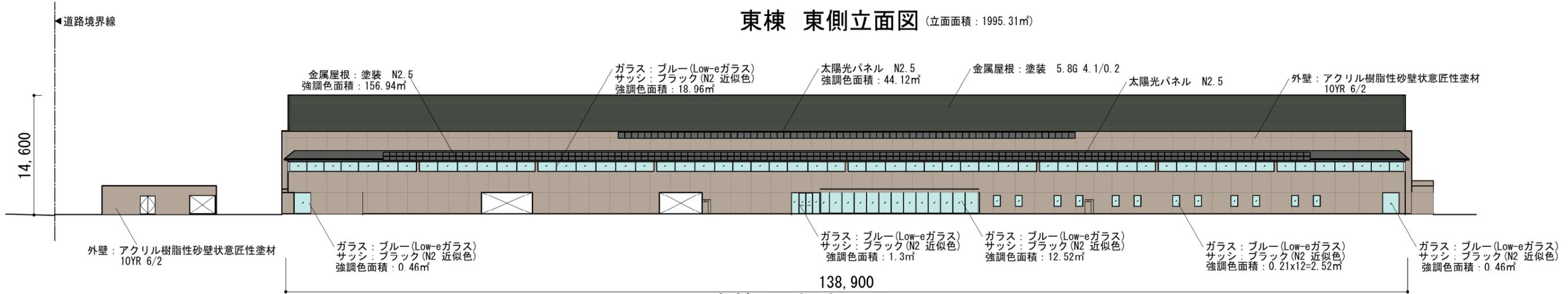
テニス施設の一体感を出すため、屋外テニスクレイコートの荒木田土を外壁色のイメージに採用しています。

## 04 | 各種図面

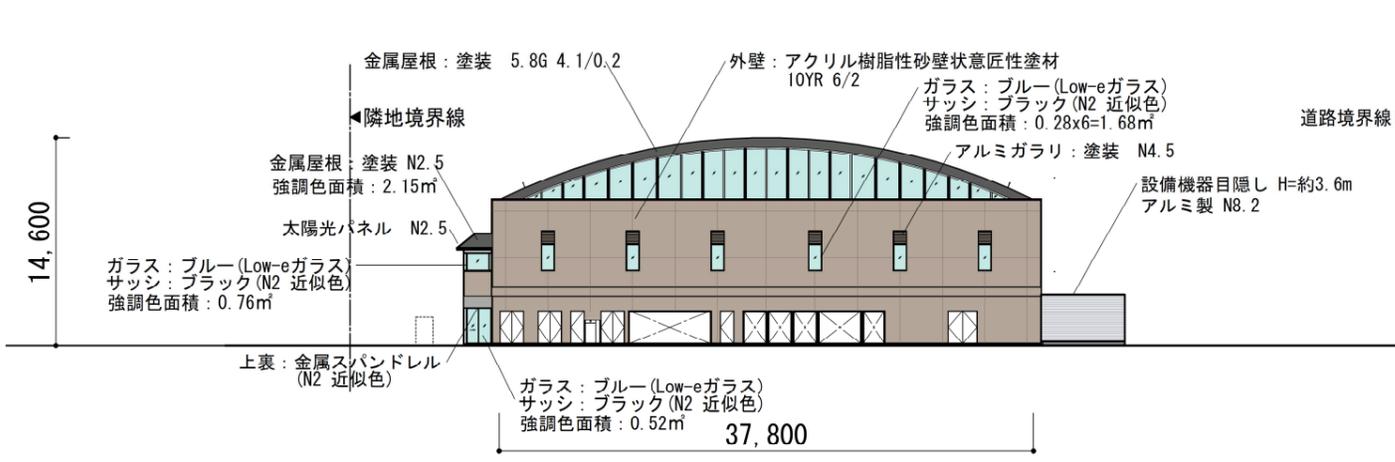
### 東棟 立面図



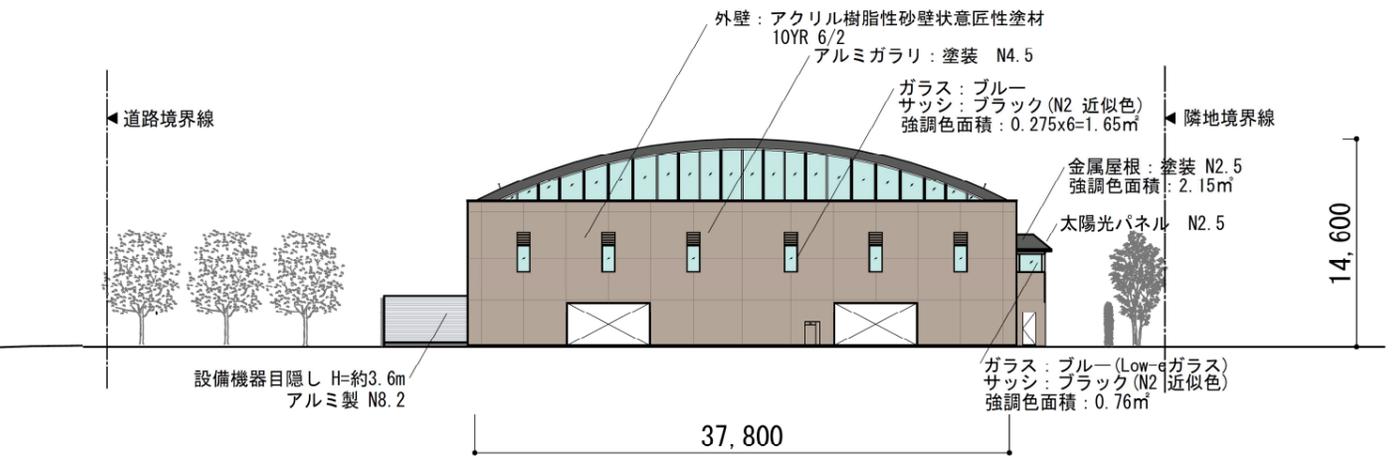
東棟 東側立面図 (立面面積: 1995.31㎡)



東棟 西側立面図 (立面面積: 2002.52㎡)



東棟 南側立面図 (立面面積: 483.31㎡)



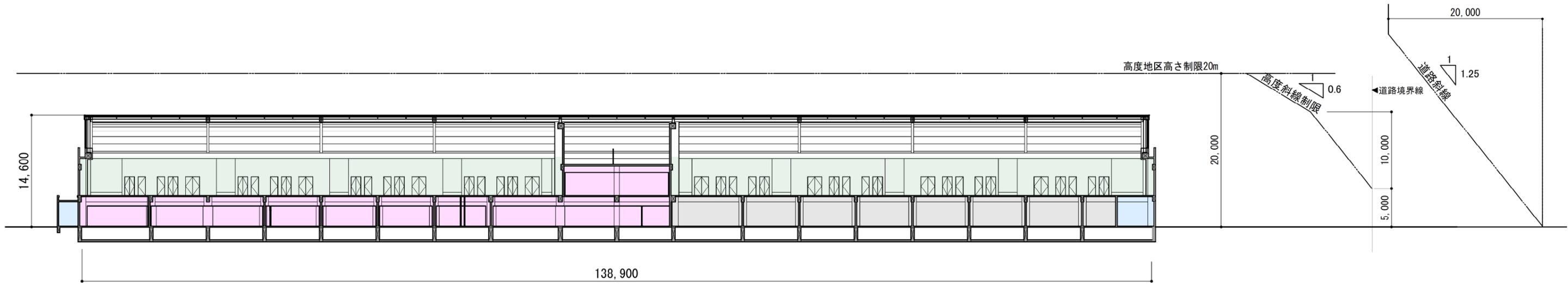
東棟 北側立面図 (立面面積: 485.33㎡)

	東側立面図	西側立面図	南側立面図	北側立面図
外壁面積	1995.31㎡	2002.52㎡	483.31㎡	485.33㎡
強調色	4.36+0.63+2.85+1.4=9.24㎡ → 0.46% < 1/5	156.94+44.12+0.46+1.3+12.52+2.52+0.46=218.32㎡ → 10.9% < 1/5	1.68+2.15+0.76+0.52=5.11㎡ → 1.06% < 1/5	1.65+2.15+0.76=4.56㎡ → 0.94% < 1/5
基本色	1986.007㎡ → 99.54% > 4/5	1,784.2㎡ → 89.10% > 4/5	478.2㎡ → 98.94% > 4/5	480.77㎡ → 99.06% > 4/5
アクセント色	無し	無し	無し	無し

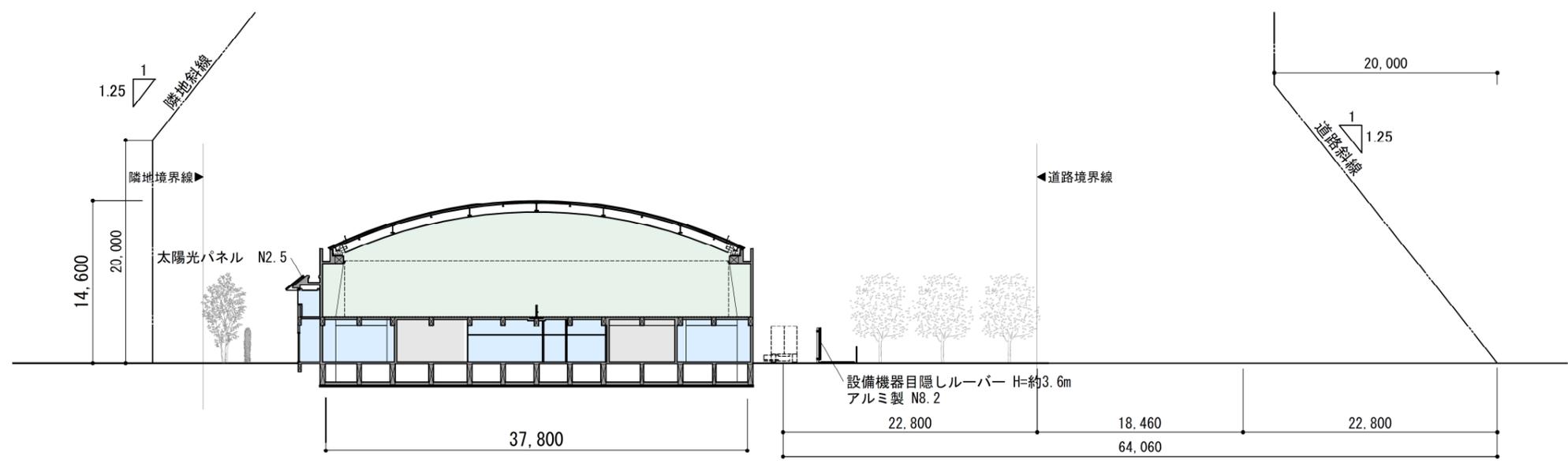
※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

04 | 各種図面

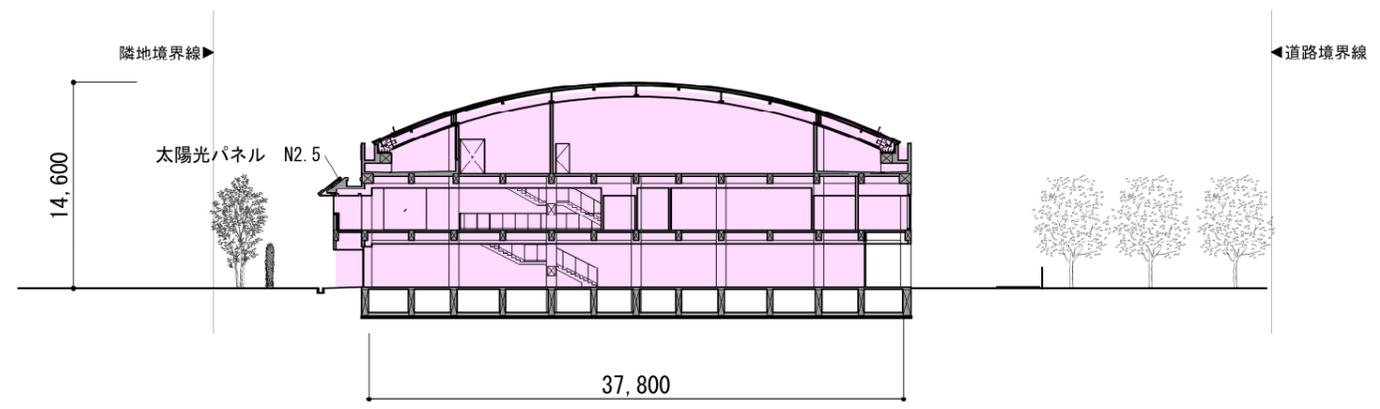
東棟 断面図



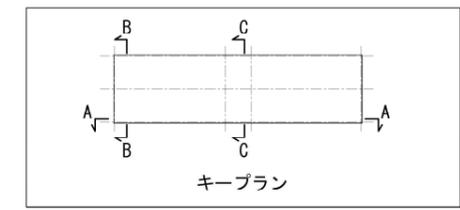
A-A 断面図 S=1/500



B-B 断面図 S=1/500



C-C 断面図 S=1/500

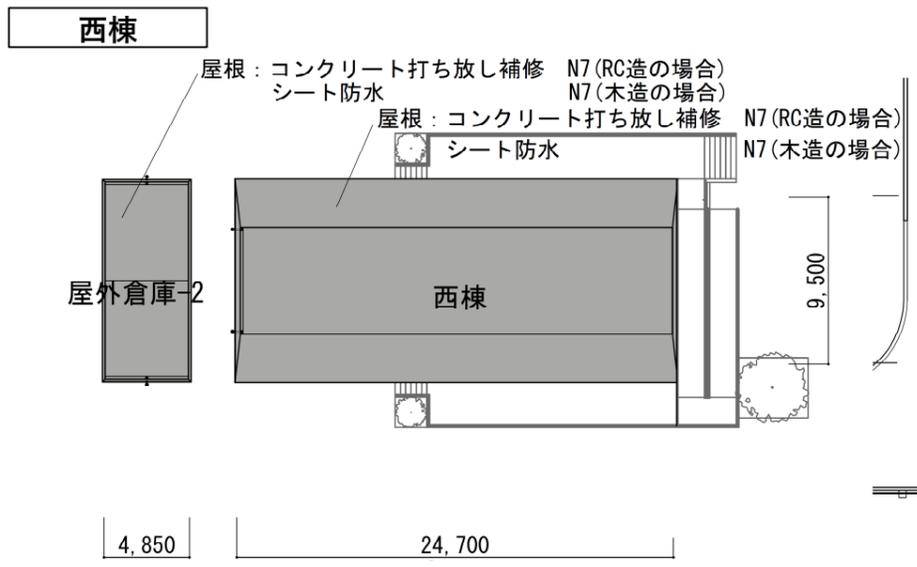


- [ゾーン分け凡例]
- : 施設利用者
  - : 運営関係者
  - : 駐車場・車路
  - : 屋内テニスコート

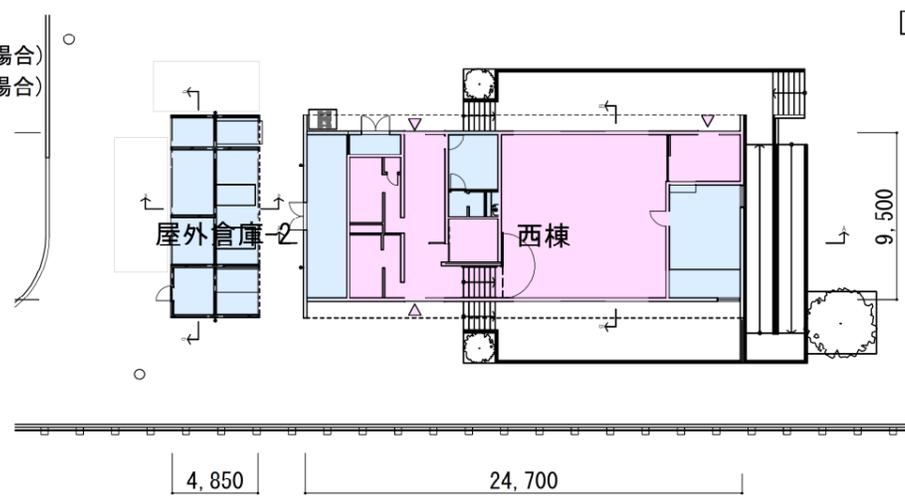
※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

# 04 | 各種図面

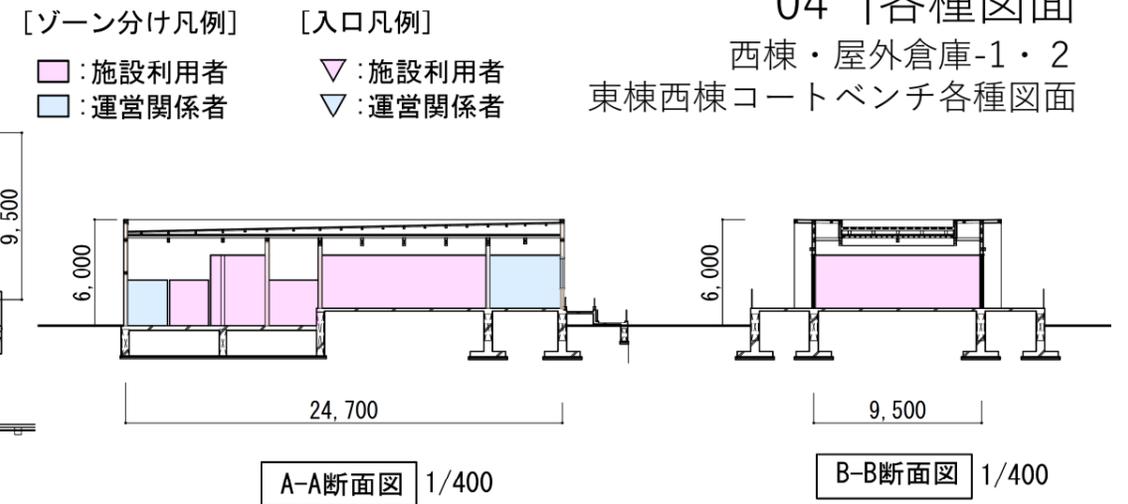
西棟・屋外倉庫-1・2  
東棟西棟コートベンチ各種図面



屋根伏せ図 1/400

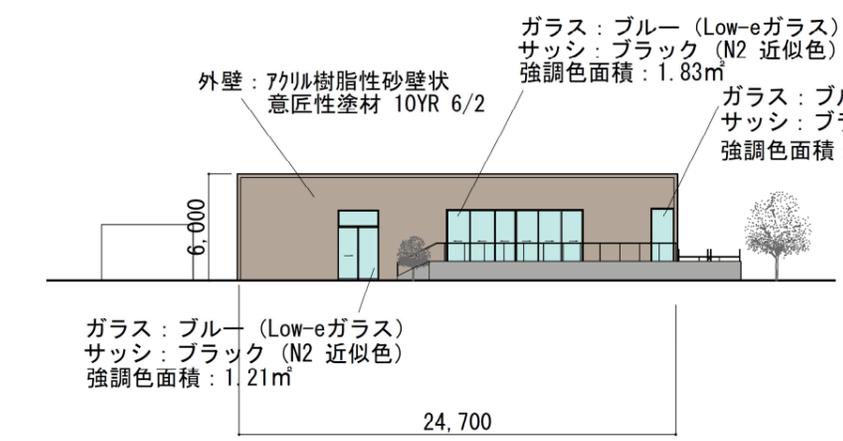


平面図 1/400

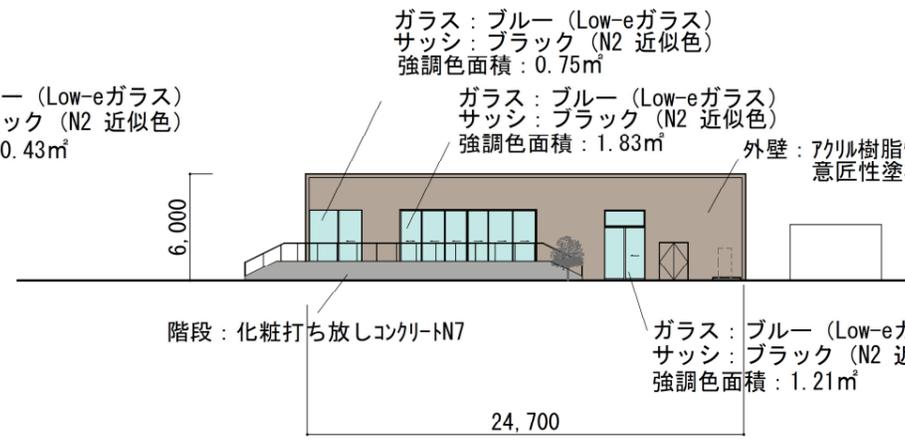


A-A断面図 1/400

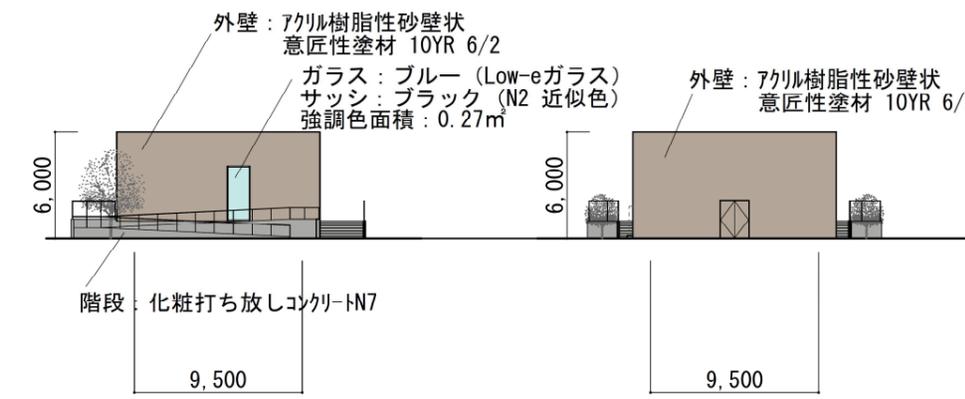
B-B断面図 1/400



南立面図 1/400

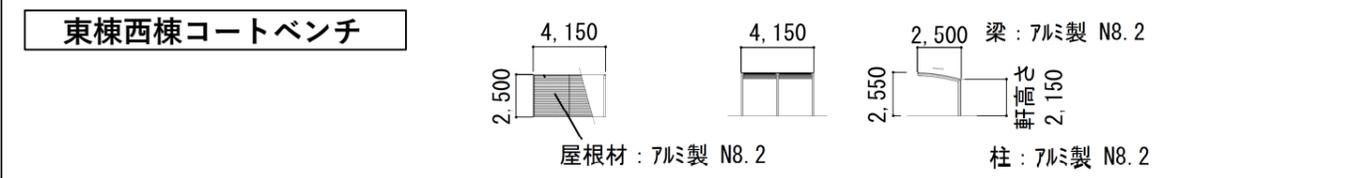
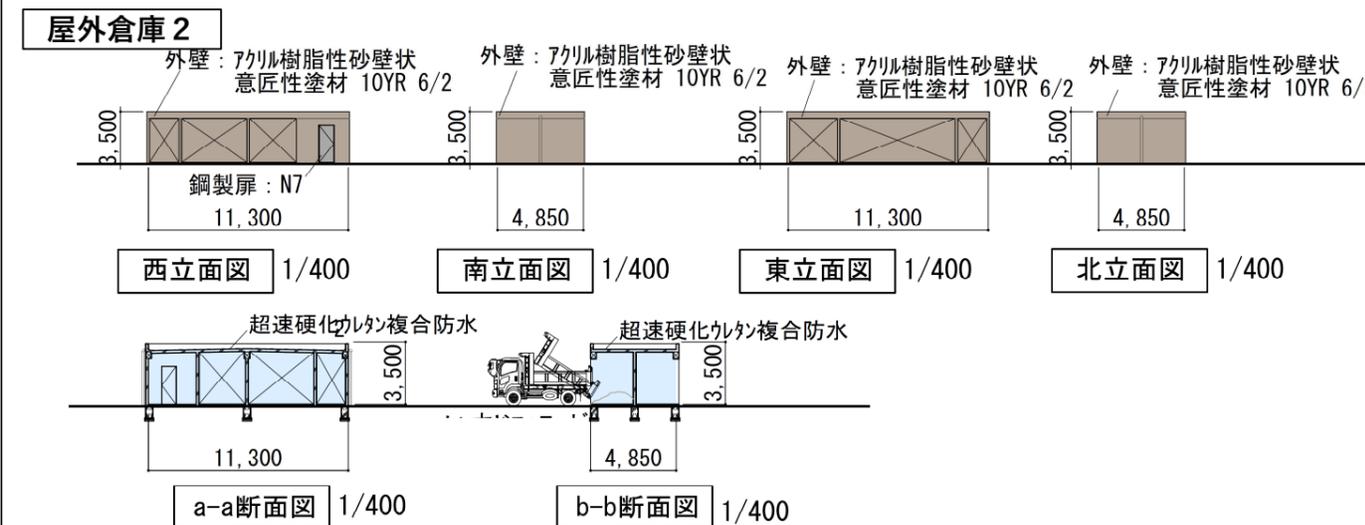
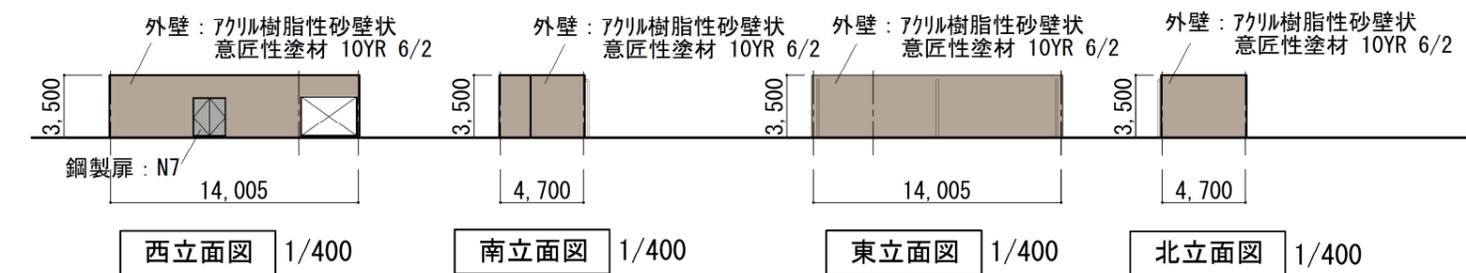
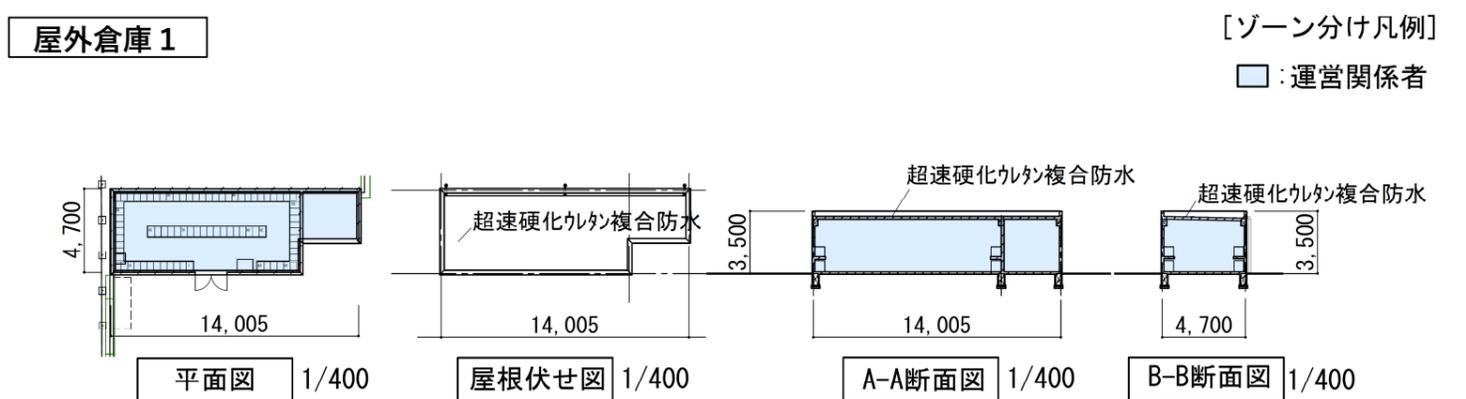


北立面図 1/400

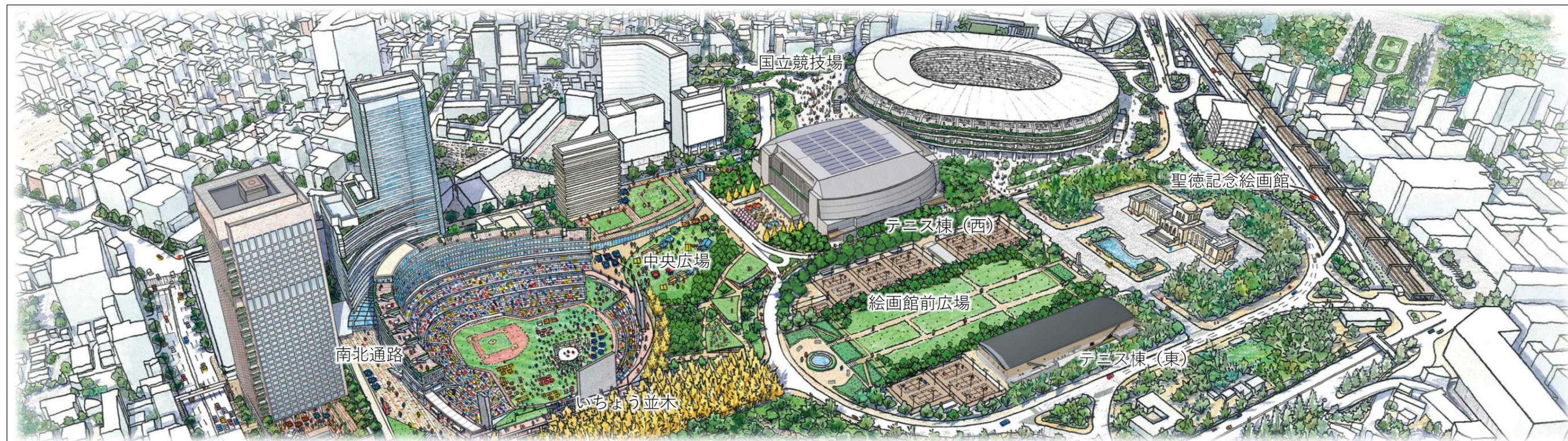


東立面図 1/400

西立面図 1/400



※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。



### ■ 建築物の形態意匠について

#### 1: 地区全体でのデザイン計画

・地区全体でのデザインを調整するような体制づくりの検討が重要だと思われる。

- ◆ 神宮外苑まちづくりエリアで連携を図り、神宮外苑全体で雰囲気合わせたまちづくりとなるよう取組みます。

#### 2: 敷地景観に配慮したデザイン計画

・絵画館前テニス場棟について、地区の歴史性を踏まえ、ビスタ景を阻害しないよう検討されたい。  
・歩行者目線からの景観を踏まえるとテニス場は本当に隠すものなのか、考え方を知りたい。

- ◆ 神宮外苑の歴史を後世に継承するため、創建時の基本的な思想とマスタープランより、絵画館前のビスタ景の具現化を行います。緩衝緑地には高さや形の異なる樹木をランダムに配置することで建物への視線を効果的に遮り、また、聖徳記念絵画館を基点とする新たなビスタ景を作り出します。
- ◆ 建物側の景観配慮として、できる限り高さを抑え、屋根形状の工夫、外壁仕上げ等による分節化、暗めの色彩や窓ガラスによる風景の映り込みで周辺の風景に馴染む計画としています。
- ◆ 円周道路や絵画館前広場から十分な離隔をとった建物配置とすることで、歩道や広場に対する圧迫感を低減し周辺環境との調和を図ります。
- ◆ できる限り保存樹木を増やし、既存植生に配慮した植栽計画とします。
- ◆ 西道路からの目線は既存樹木により、テニス場は隠れる計画となっています。

### ■ みどり・外構計画について

#### 3: 緑のネットワークの形成

・新宿御苑や赤坂御所等の周辺の緑地帯と濃い面的なみどりで連続するよう検討されたい。

- ◆ 周辺道路からは新宿御苑や赤坂御所等の緑地帯と合わせ、景観として植樹帯が連なって見えるようにします。外周は濃い高木、内部は薄い植栽とする神宮外苑の創建時の基本方針に則り、広場は芝生を基調とし、B-1 地区の敷地外周部においては残すことが可能な在来樹木を残置・保全するとともに、施設配置上伐採が生じるものであっても移植可能と診断された樹木については、移植し保全することでメリハリある緑の空間を創出します。

#### 4: 長期的な樹木育成に配慮

・20年先、50年先といった長期スパンでの樹木の育成を考慮した緑の計画を検討されたい。

- ◆ 敷地内の樹木は、外苑に存在する既存樹種や東京都由来種に倣い、生態系の保全や景観性向上に寄与する樹種を選定します。常緑高木は強健でメンテナンス性に優れた樹種(シラカシ、スダジイ、タブノキ等)とします。

#### 6: 絵画館前広場の利活用促進

・絵画館前広場の芝生について、眺めるだけの場とするのではなく、人々が利活用できる運用等を検討されたい。

- ◆ 絵画館前広場内に樹木による緑陰のある空間やベンチを点在することで、日常的には散歩や休憩などの安らぎや憩いの場としての活用することにより、都市に安らぎと活力を与える空間を創出していきます。
- ◆ 周辺イベント開催時、絵画館前広場は一般開放時間外も開放する運用を想定しています。

#### 5: 四季を感じられる植栽計画

・季節毎にゾーン分けした植物の配置を検討されたい。

- ◆ 季節感のある植栽(落葉樹)を取り入れることで利用者に四季折々の美しい景観を提供し、日本の文化や風土を感じられるようにします。

## 2：敷地景観に配慮したデザイン計画

〈歴史の継承〉 いちょう並木のビスタ景に配慮し、地区の豊かな歴史を感じさせる景観を形成

### 整備方針（STEP3）

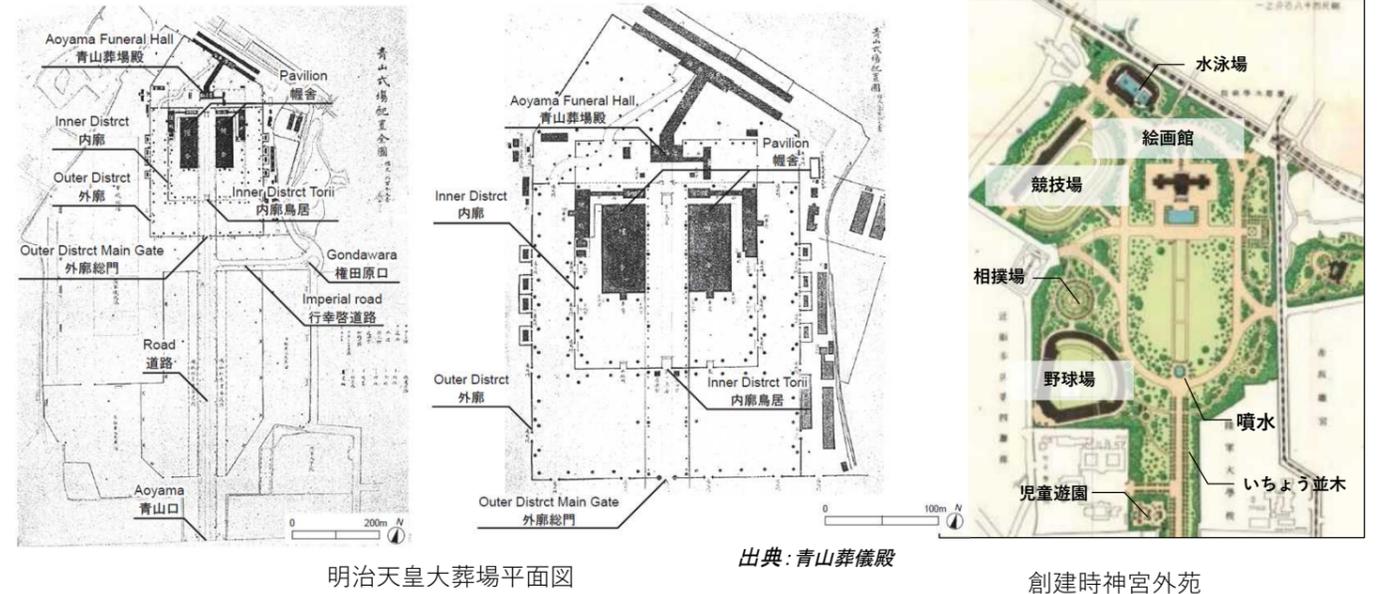
・いちょう並木から葬場殿址までの明治天皇大葬儀の参列を想起させる歴史的眺望を保全し、地域に開かれた絵画館前広場と苑路を復刻することで魅力に富んだ景観を形成します。

#### ■ 外苑造園時のマスタープラン

- ・外苑全体は「大衆の屋外レクリエーションのための広大な景園地」をつくるのが造苑計画の基本方針であります。絵画館前広場では、並木通りから絵画館に到達する広場内通路が明治天皇の大葬儀の参列道をイメージして設けられており、景観軸を構成していました。このような歴史経緯の中、まちづくり指針においても、絵画館の前庭としての広場の位置づけがされています。

#### ■ 創建時の空間的特徴

- ・いちょう並木から繋がる南北軸を強調し、象徴的なビスタ景をつくる梯子状の苑路。
- ・直線的な梯子状の苑路と対照的な広場周辺を取り巻く自然曲線で構成された苑路。
- ・軸線の緊張を和らげる自然配植された樹林によって、やわらかく包み込まれる芝生広場。
- ・スポーツ施設を包み込み外苑全体の一体感を創り出す深淵な樹林。



#### ■ 神宮外苑のいちょう並木の位置付け

- ・青山道りから地域の歴史・文化資源である聖徳記念絵画館の正面に向かって配植された4列のいちょう並木は、東京の象徴的な景観を形成するシンボリック位置づけであります。
- ・四季折々に美しい姿を見せるいちょう並木は11月～12月の黄葉が最も美しく、多くの方が散策に訪れています。
- ・黄葉の時期に開催される「いちょう祭り」、「全国工芸職人展」、「クリスマスマーケット」など各種イベントは地区内に多くの人々が訪れる秋の風物詩として定着しています。

#### ■ いちょう並木に対する配慮

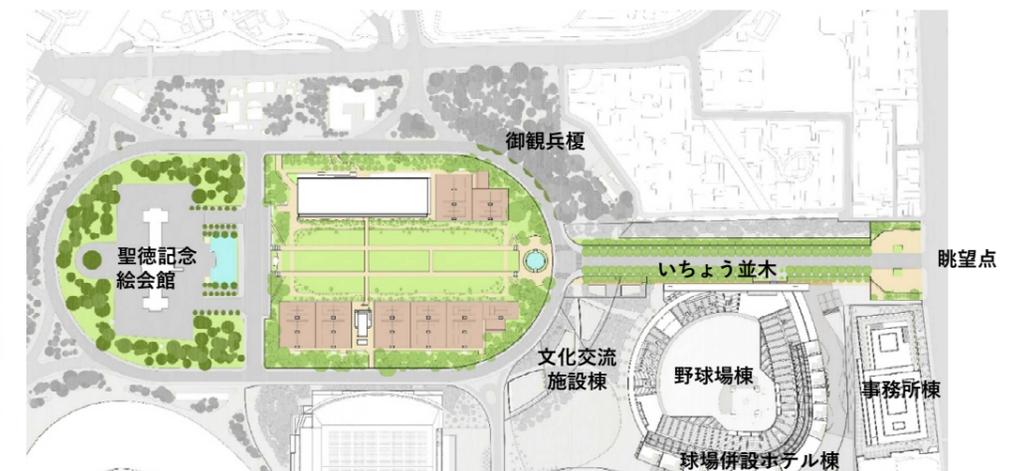
- ・隣接街区における開発事業等と連携することにより、いちょう並木のビスタ景に配慮した景観を形成します。

#### ■ 景観軸を活かした新たな都市空間の創出

- ・創建の趣旨と歴史性を考慮し、絵画館を中心としながら、将来を見据えた新たな都市空間を形成していきます。戦後、GHQ接收の名残がある混沌とした現状の絵画館前を改善し、伝統的な景観軸を捉え、新設広場を南北に通すことで公共性を融合させ、新たな都市の風景を生み出す計画であります。



象徴的ないちょう並木4列のビスタ景



STEP3配置図（参考）

※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

2：敷地景観に配慮したデザイン計画



2：敷地景観に配慮したデザイン計画



## 2 : 敷地景観に配慮したデザイン計画

〈眺望〉 いちょう並木と聖徳記念絵画館を繋ぐビスタ景に配慮した建築計画による、魅力ある眺望の実現

## 整備方針 (STEP2)

- ・ 聖徳記念絵画館を中心とした広大な眺めを保全するために、建築物等は、緑等の背景として見えることを意識して、建築物の高さ、配置、デザイン、色彩、形態等をし、一体感のある景観形成に配慮します。

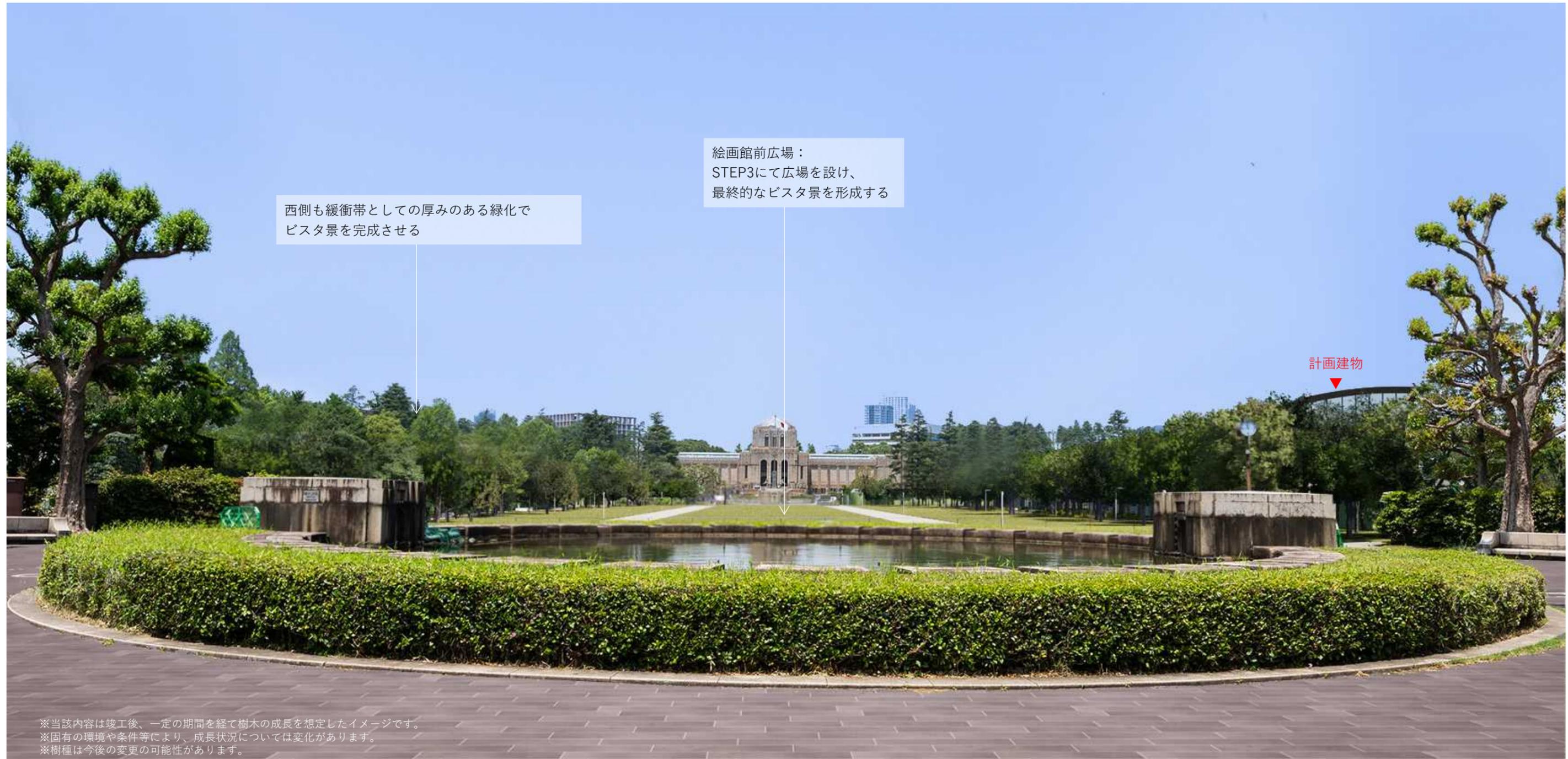


## 2：敷地景観に配慮したデザイン計画

〈眺望〉 いちょう並木と聖徳記念絵画館を繋ぐビスタ景に配慮した建築計画による、魅力ある眺望の実現

## 整備方針 (STEP3)

- ・ いちょう並木から聖徳記念絵画館を望む象徴的な歴史的眺望を保全するために、絵画館前を創建当時の趣旨を継承した広大な広場に整備します。
- ・ 聖徳記念絵画館へのビスタ景の周囲や背景の緑により、より風格のある空間を形成します。
- ・ ビスタ景の軸線をより強調するために、広場に隣接する建築物との緩衝帯として新たな緑化を整備します。



※当該内容は竣工後、一定の期間を経て樹木の成長を想定したイメージです。  
 ※固有の環境や条件等により、成長状況については変化があります。  
 ※樹種は今後の変更の可能性がります。

2：敷地景観に配慮したデザイン計画

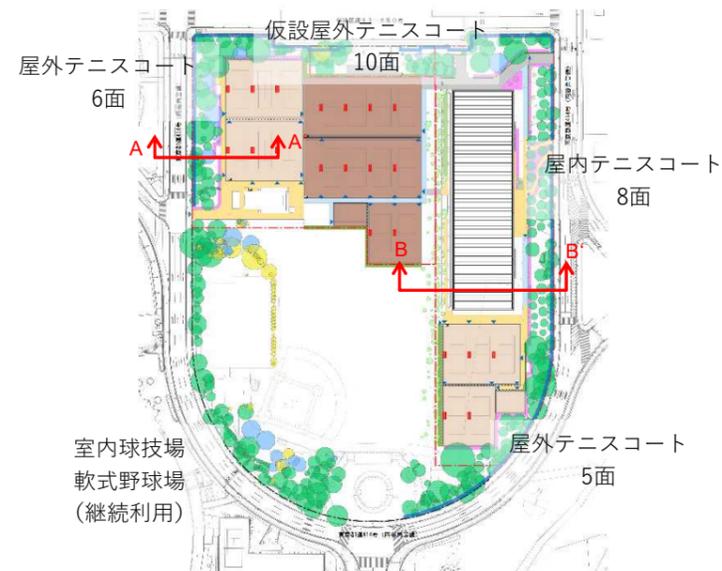
〈眺望〉 いちよう並木と聖徳記念絵画館を繋ぐビスタ景に配慮した建築計画による、魅力ある眺望の実現

整備方針 (STEP2・3)

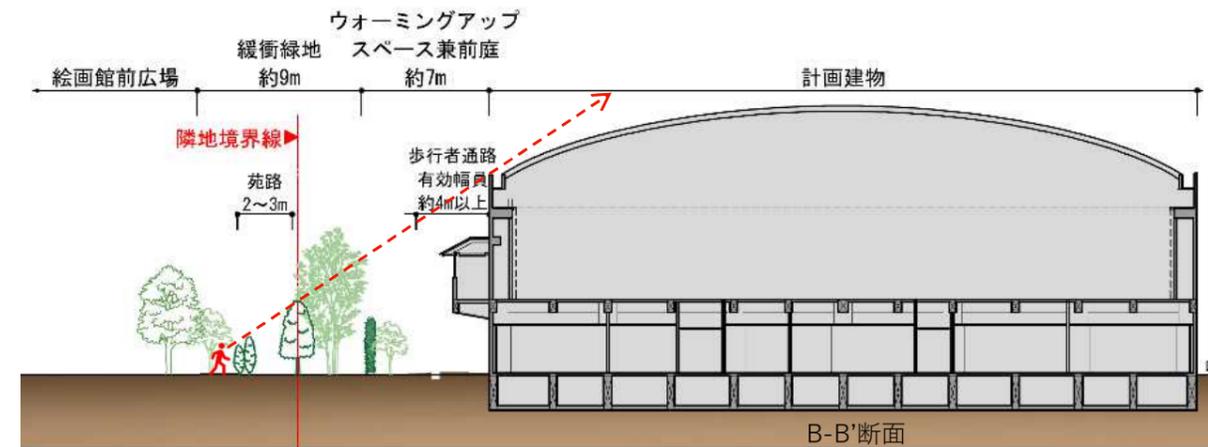
- ・ いちよう並木から聖徳記念絵画館を望む歴史的眺望を保全し、さらに、ビスタ景の周囲に風格ある緑の環境と調和し魅力に富んだ景観を形成します。

■ 絵画館前広場の樹木の考え方

絵画館前広場や周辺道路からテニスコートの見え方に配慮した植栽計画とします。

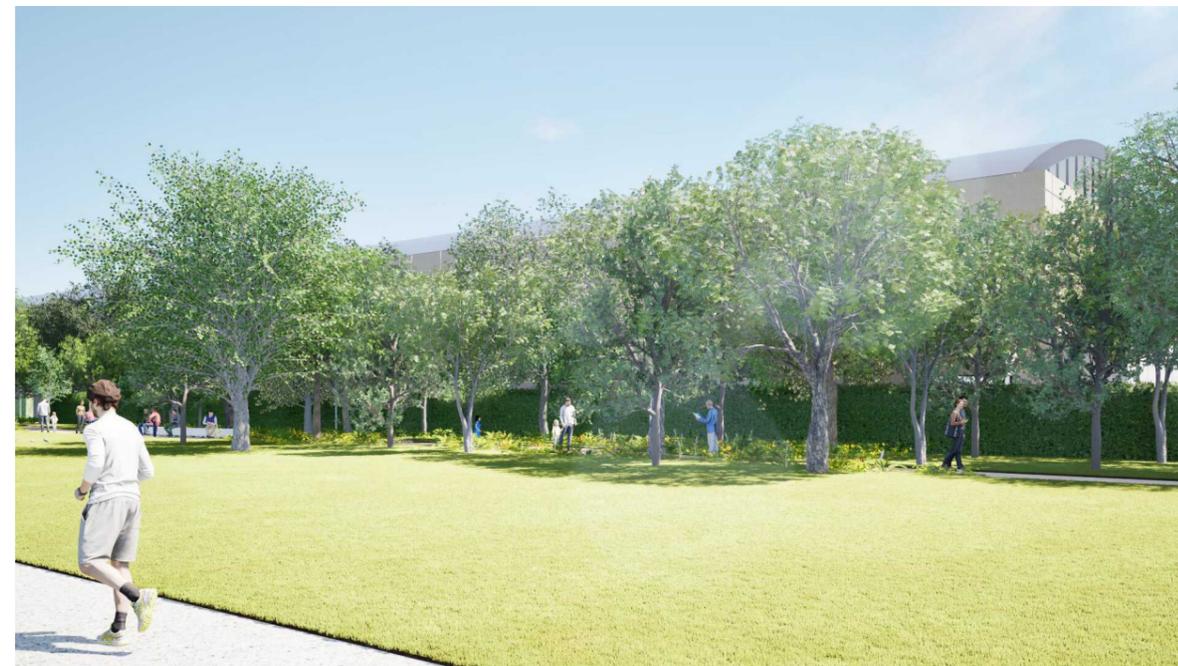
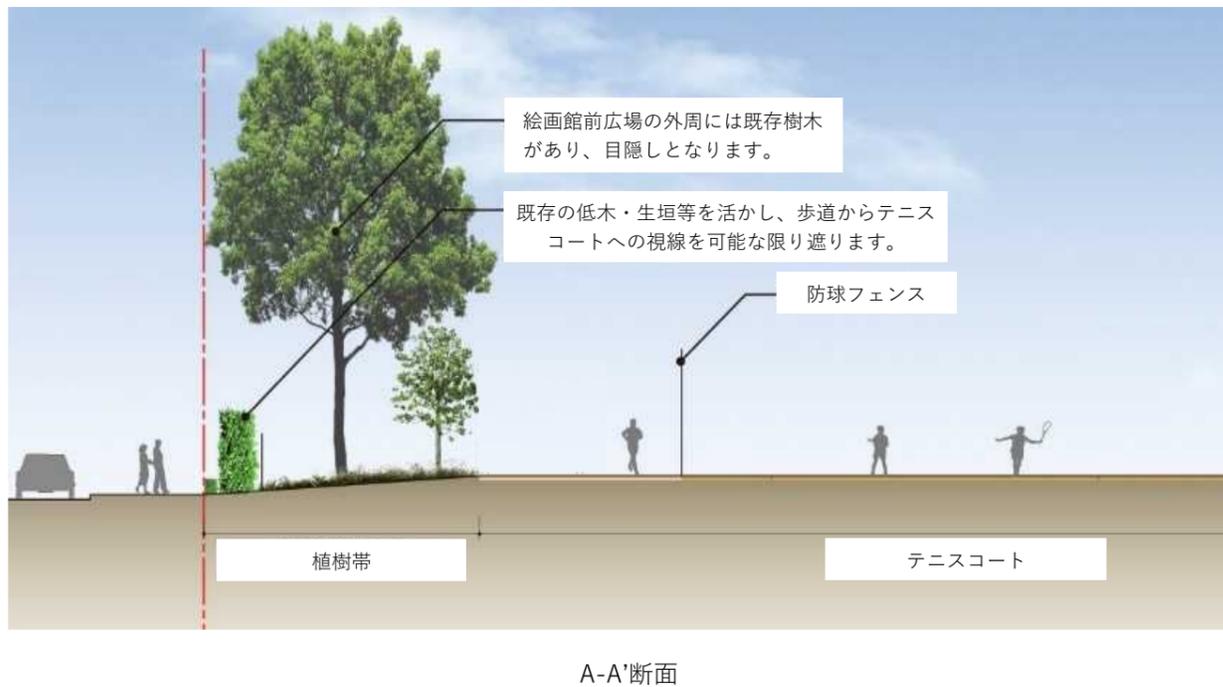


■ 眺望絵画館前広場からテニスコ棟の見え方への配慮 (高さ軽減)



- ・ヴォールト屋根を壁面から内側にセットバックし、壁と屋根を分節することでアイレベルから見た場合にヴォールト屋根の存在感が緩和され、全体のボリューム感を抑える計画とします。
- ・外壁上部は左官仕上げとし、絵画館のテクスチャーとニュアンスを合わせ、自然な風合いで格調と落ち着きのある色合いとしています。

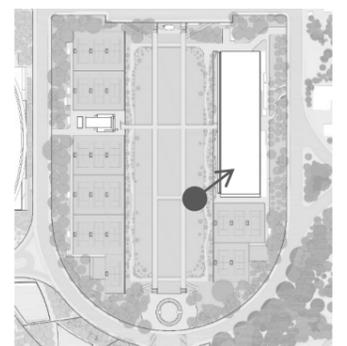
■ 外周道路及び絵画館前広場からの見え方



STEP3完成予想パース



外壁上部左官仕上げイメージ



左パース視点想定位置

※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。

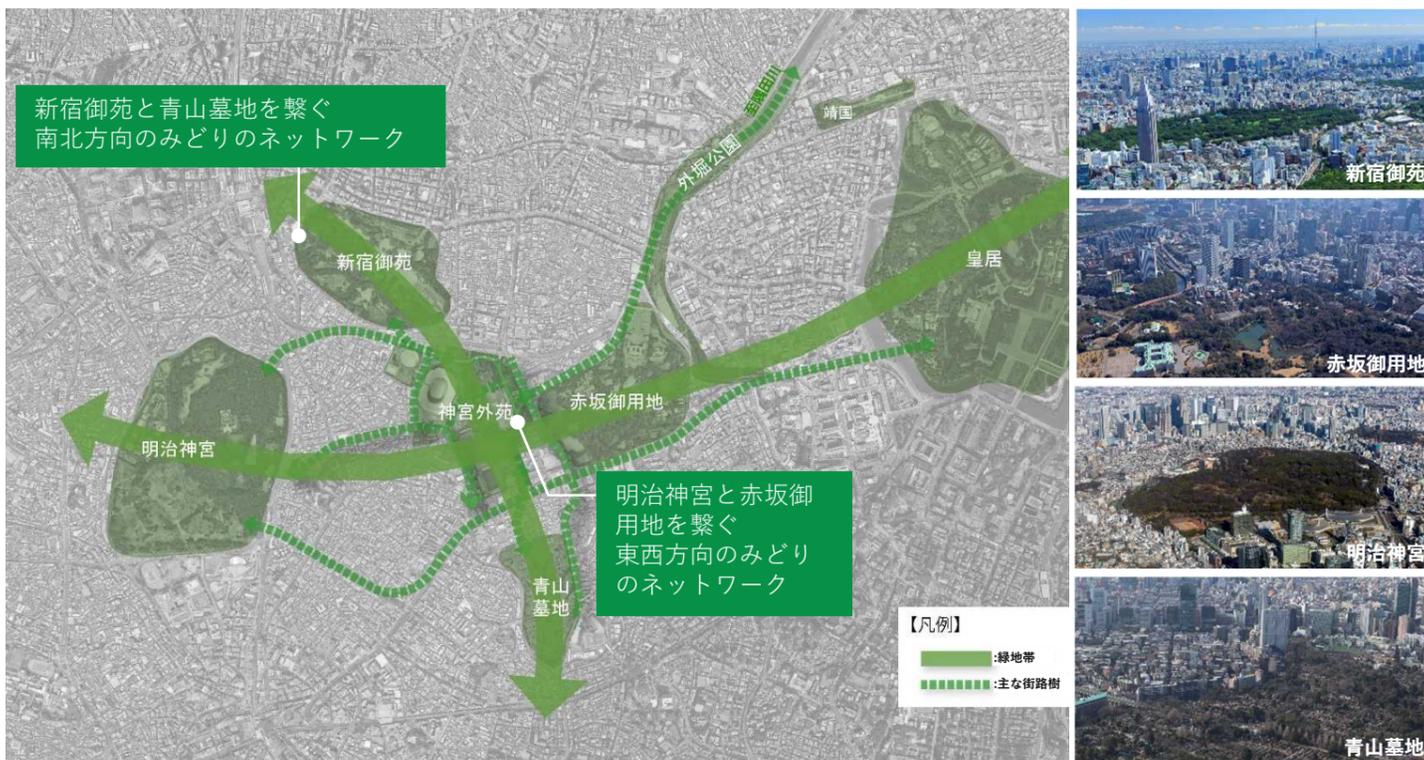
3：緑のネットワークの形成・動線方針（STEP3）

○緑のネットワークの形成

周辺道路からは新宿御苑や赤坂御所等の緑地帯と合わせ、景観として植樹帯が連なって見えるようにします。外周は濃い高木、内部は薄い植栽とする神宮外苑の創建時の基本方針に則り、広場は芝生を基調とし、B-1地区の敷地外周部においては残すことが可能な在来樹木を残置・保全するとともに、施設配置上伐採が生じるものであっても移植可能と診断された樹木については、移植し保全することでメリハリある緑の空間を創出します。

■周辺の大規模緑地エリア

- ・計画地周辺には明治神宮、新宿御苑、赤坂御用地、青山霊園等、都内でも有数の大規模緑地が分布しており、各緑地間には内外苑連絡道など、街路樹等によるネットワークが形成されています。
- ・神宮外苑内には、聖徳記念絵画館周辺や御観兵榎周辺の植栽樹林群は広く残存し、造成から百年経過した樹林による豊かな自然環境が形成されています。それらの自然環境が基盤となり、外苑内での生態系も形成されています。



■計画地のみどりのコンセプト

みどりのコンセプト①



眺望点からのビスタ景を意識した、開放的な広場空間の整備



みどりのコンセプト②



まとまりのあるみどりの維持・保全

○動線方針（STEP3）※参考

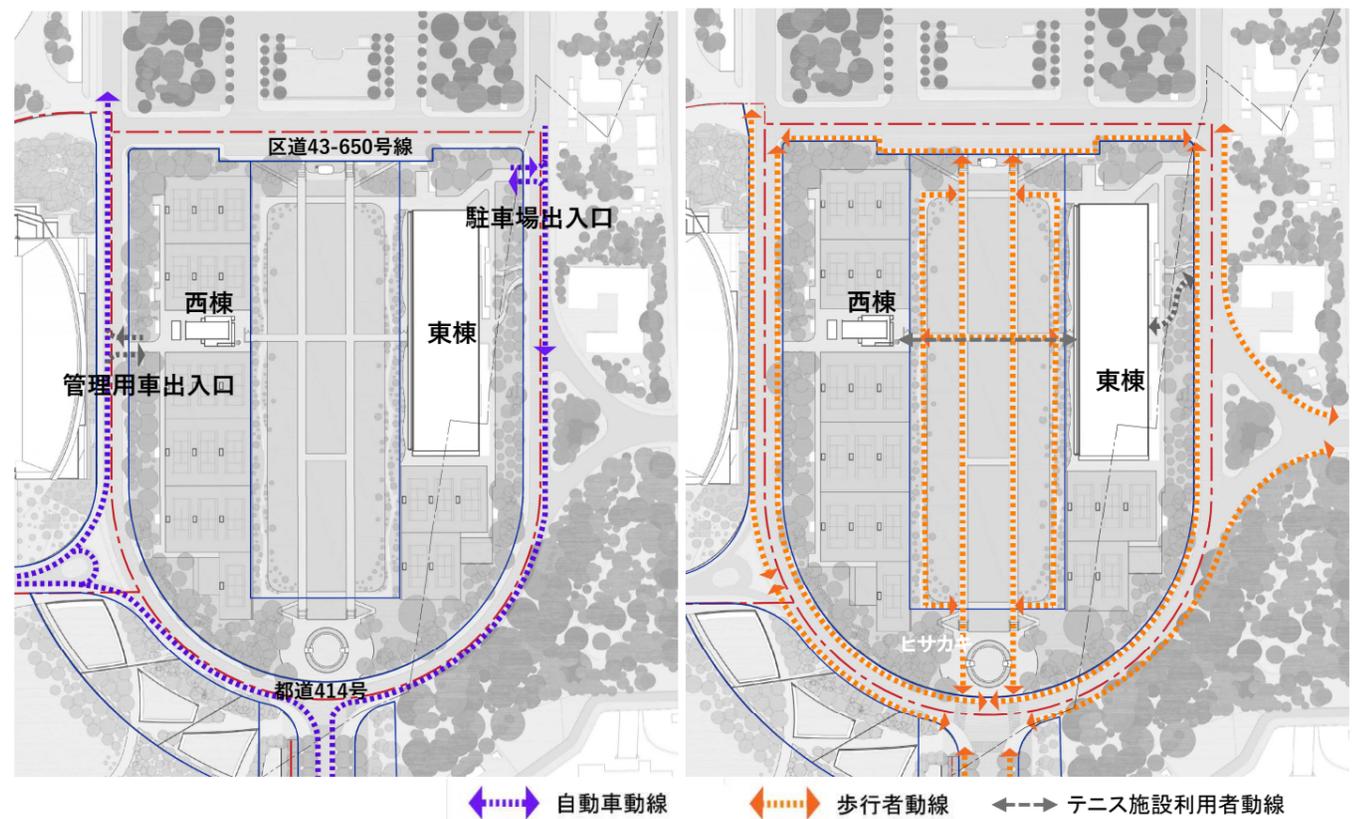
■自動車ネットワーク

各施設へのアクセスの考え方

- ・B-1地区への自動車アクセスは、日曜日・休日の交通規制時におけるアクセスを考慮し、外周部の都道414号線の計画地東側とします。

■歩行者ネットワーク

- ・絵画館前広場の中央部には前庭となる広場と合わせビスタ景の軸線を延伸する歩行者通路を設けます。また、広場とスポーツ施設（テニスコート）との間に緩衝帯としての生垣や複数高さの樹木を自然配植するとともに、あわせて歩行者動線やベンチ等を配置する事で、人々が佇み、安らぐ事のできる憩いの空間を創出します。
- ・スポーツ施設への利用者のアクセスは原則、外周の東側道路からとし、スポーツ施設間の東西連絡補助通路を広場内に設けます。
- ・東西への動線はイベントや災害時の安全性を考慮し、幅員約22mの北側区道43-650号で計画します。本エリアは外周道路から樹木に覆われており、広場は視覚的に隠れています。南北から広場へ入る際、遠近感を強調することで視覚的な南北軸線のインパクトを与えるコンセプトです。なお、風致条例の基準により、既存樹木はできるだけ伐採しない方針です。



4：長期的な樹木育成に配慮 5：四季を感じられる植樹計画

○整備方針 (STEP2、STEP3)

- ◆ 健全な既存樹木の保全と移植により、歴史あるみどりの継承を図るとともに、創建時の樹種と東京部の在来種を中心とした神宮外苑にふさわしい植栽計画とします。
- ◆ 絵画館前につながる歴史的ビスタ景観をつくる、みどりの保全の強化を図ります。
- ◆ 生物多様性の保全に配慮した植生種とします。

- ◆ 敷地内の樹木は、生態系の保全や景観性向上に寄与する樹種を選定し、常緑高木は強健でメンテナンス性に優れた樹種とします。
- ◆ 季節感のある植栽や落葉樹を取り入れることで、利用者に四季折々の美しい景観を提供し、日本の文化や風土を感じられるようにします。
  - ・東京都潜在自然植生図および東京都 在来種選定ガイドラインに基づき、在来種を優先的に取り入れます。
  - ・潜在自然植生種を選ぶことで、周辺に生息する生物が利用しやすい緑地を創出し、生態系ネットワークの形成にも寄与します。その他にも既存樹種と調和する樹種を取り入れます。
  - ・外周の緑地との調和を考慮した植栽を選び、景観の向上と地域住民の生活環境に寄与します。
  - ・葉の薄い樹木を取り入れることで、緑陰が生まれやすく、人々が休憩できる木陰を提供する環境を創出します。

○STEP2新植栽木リスト

- ・落葉樹は新植樹種の3割にて設定しています。
- ・新植樹木地被：極力、地域性に配慮した植物種を選定しています。複数の樹木高さにて徐々に高くなる配植とし、植栽帯が明るい雰囲気になるよう、斑入りの地被を選定しています。また、高木の下に植栽するため一部日陰に耐える種を選定しています。

■高木リスト

樹種	特長	創建時に植えられた種	外苑に現存する種	東京在来種	分類	高木 本数合計(本)	高木1(8m)			高木2(6m)			高木3(4m)		
							本数(本)	幹周C(m)	枝張りW(m)	本数(本)	幹周C(m)	枝張りW(m)	本数(本)	幹周C(m)	枝張りW(m)
シラカン	常緑高木	●	●	●	①	21	4	未定	3.0	9	未定	2.0	8	未定	1.0
スダジイ	常緑高木	●	●	●	①	20	4	未定	3.0	8	未定	2.0	8	未定	1.0
モチノキ	常緑高木	●	●	●	①	14	0	未定	3.0	6	未定	2.0	8	未定	1.0
マテバシイ	常緑高木	●	●	-	②	19	4	未定	3.0	7	未定	2.0	8	未定	1.0
タブノキ	常緑高木	-	●	●	③	20	4	未定	3.0	7	未定	2.0	9	未定	1.0
クヌギ	落葉高木	●	●	●	①	6	1	未定	4.0	1	未定	3.0	4	未定	2.0
ケヤキ	落葉高木	●	●	●	①	8	2	未定	5.0	3	未定	3.0	3	未定	1.0
コブシ	落葉高木	●	●	●	①	7	0	未定	3.0	3	未定	3.0	4	未定	1.0
ヤマザクラ	落葉高木	●	●	●	①	4	0	未定	4.0	1	未定	2.0	3	未定	1.0
トチノキ	落葉高木	●	●	●	①	7	2	未定	2.0	2	未定	2.0	3	未定	1.0
ヒトツバタゴ	落葉高木	●	●	-	移植	9	2	未定	5.0	6	未定	4.0	1	未定	2.0

※明治神宮外苑志(明治神宮外苑創建当時の施工記録図書)に記載されています。

■中低木リスト

樹種	特長	創建時に植えられた種	東京在来種	密度(本/m <sup>2</sup> )
アセビ	常緑低木	-	●	未定
ヒサカキ	常緑低木	-	●	未定
マンリョウ	常緑低木	-	●	未定
キチジョウソウ	多年草	-	●	未定
ツツプキ	多年草	-	●	未定
ヤブラン	多年草	-	●	未定
オオバジャノヒゲ	多年草	-	●	未定
斑入りヤブラン(園芸品種)	多年草	-	-	未定
斑入りツツプキ(園芸品種)	多年草	-	-	未定

※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。



4：長期的な樹木育成に配慮 5：四季を感じられる植樹計画

○絵画館前広場（芝生広場）

・創建時の広場のイメージを想起させます。芝生広場及び梯子状の苑路を計画します。梯子状苑路及び東西の高木配植により、いちよう並木から絵画館に至る新たなビスタ景をつくります。

○緩衝緑地・生垣

・広場と建物、テニスコートの間には厚みのある植栽、生垣を設け、広場利用者と屋外テニスコートとの距離を自然に離隔することで双方にストレスを与えない環境をつくります。また緩衝緑地により広場利用者へ緑陰の憩いの空間を提供します。

○外周緑地

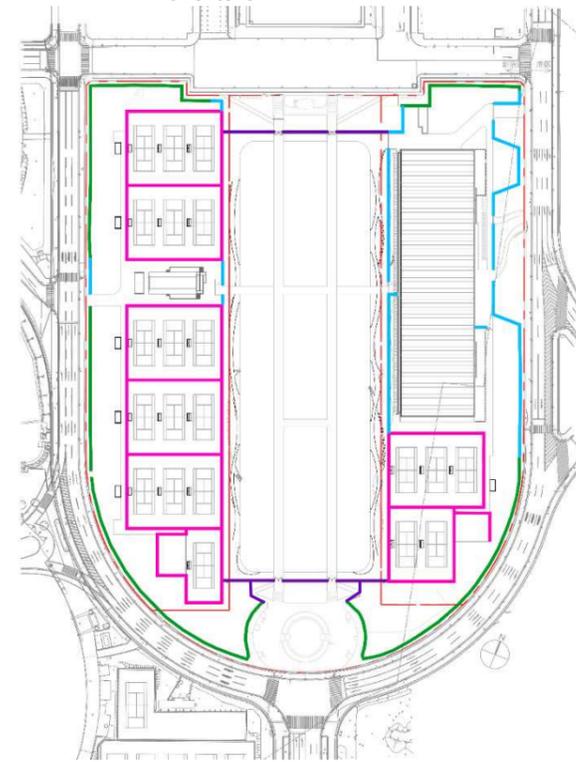
・建物およびテニスコートは外周部から離隔された配置とし、既存樹木を保全します。

OSTEP 3 新植中低木樹木地被リスト

樹種	特長	創建時に 植えられた種	東京 在来種	密度 (本/m <sup>2</sup> )
アセビ	常緑低木	-	●	未定
ガマズミ	落葉低木	-	●	未定
ウツギ	落葉低木	-	●	未定
キチジョウソウ	多年草	-	●	未定
パニシダ	多年草	-	●	未定
斑入りヤブラン(園芸品種)	多年草	-	-	未定
ヒサカキ	常緑低木	-	●	未定
マンリョウ	常緑低木	-	●	未定
キチジョウソウ	多年草	-	●	未定
ツワブキ	多年草	-	●	未定
ヤブラン	多年草	-	●	未定
パニシダ	多年草	-	●	未定
オオバジャノヒゲ	多年草	-	●	未定

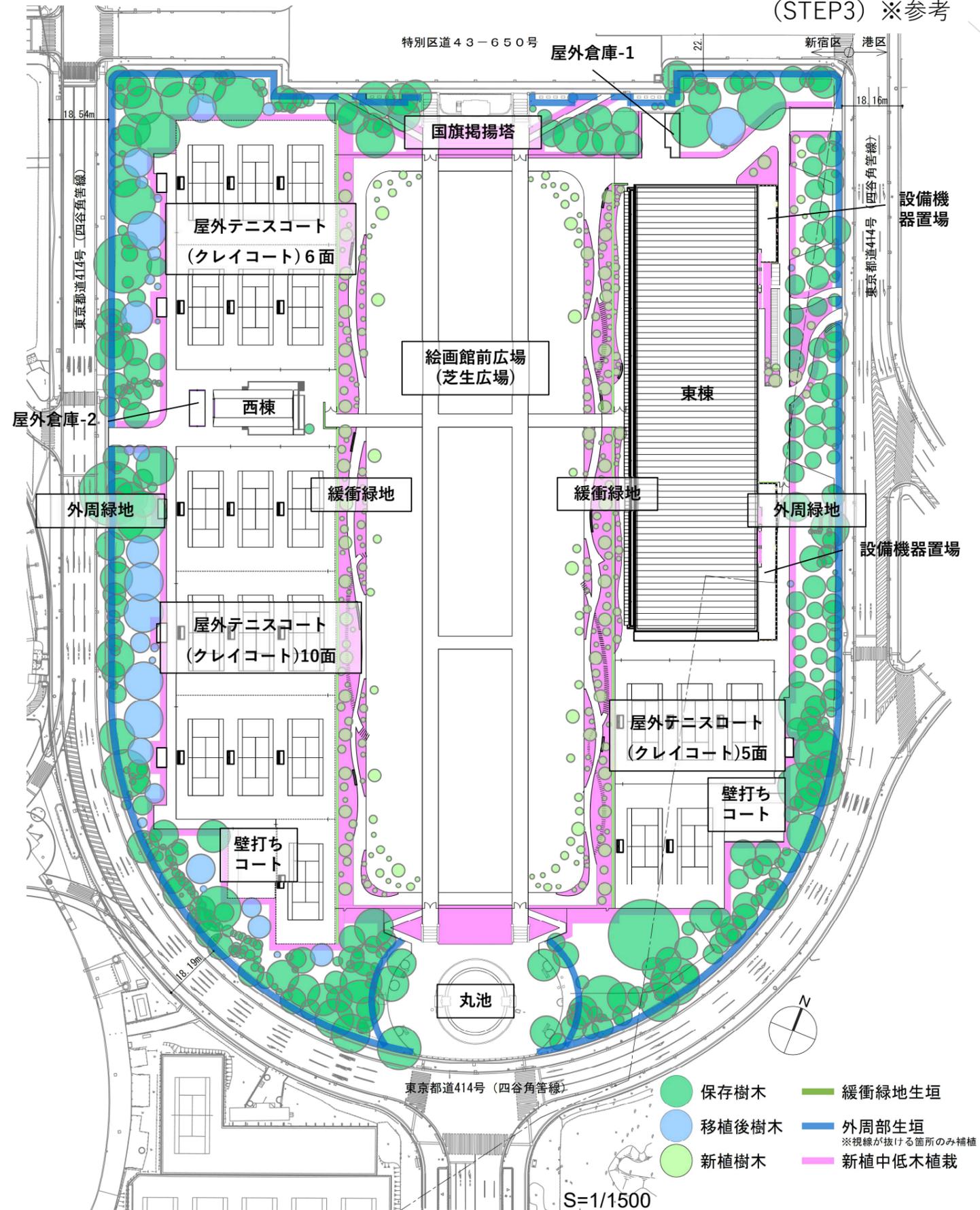


○フェンス範囲図



凡例

記号	名称	
—	敷地境界線	
—	防球フェンス(H=4.0m)	10YR 2/1
—	仮設防球フェンス(H=4.0m)	10YR 2/1
—	既存セキュリティフェンス(H=1.5m)	N7
—	セキュリティフェンス(H=1.5m)	10YR 2/1
—	セキュリティフェンス(H=1.0m)	10YR 2/1



- 保存樹木
- 移植後樹木
- 新植樹木
- 緩衝緑地生垣
- 外周部生垣  
※視線が抜ける箇所のみ補植
- 新植中低木植栽

※芝生広場には自動灌水設備設置予定

(仮称) 聖徳記念絵画館前整備事業

## 6：絵画館前広場の利活用促進

〈みどりとオープンスペース〉 いちょう並木と聖徳記念絵画館を繋ぐビスタ景に配慮した広場整備による、広がりのある景観を形成します。

## 整備方針 (STEP3)

- ・ 聖徳記念絵画館前に広大な芝生広場、及び広場とテニスコートの境界沿いに歩行者が通れる動線を整備することにより、訪れる人の安らぎと憩いを創出します。
- ・ 街区周囲は現存する樹木を極力残すことにより濃いみどりを確保しつつ、街区内の広場には人々に開かれた空間とするために芝生等を設け、メリハリのある緑化空間を形成します。
- ・ 大規模災害時の広域避難場所として地域の災害予防活動の向上に寄与します。

## ■ 安らぎと憩いを創出する絵画館前広場

- ・ 絵画館前広場は、日常的には散歩や休憩などの安らぎや憩いの場としての活用することにより、都市に安らぎと活力を与える場を創出していきます。
- ・ 絵画館前広場の一般開放時間は概ね隣接するスポーツ施設（テニスコート）の利用開始時間から日没までを前提とします。野球場での試合やイベント、また周辺施設でのイベント時には観客の通過動線として夜間も広場を開放する運用を想定しています。

## ■ 重要文化財の保全

- ・ いちょう並木のビスタ景を構成する一つの要素である丸池や国旗掲揚塔（重要文化財に付随する象徴的な設備）を保全するとともに、いちょう並木からの歩行者が溜まれるような空間を整備します。

## ■ メリハリのある緑化空間

- ・ 街区周辺は、既存の濃いみどり色の樹木を活かすことで、歴史あるこのエリアの輪郭を特徴づけます。
- ・ 絵画館前広場は、芝生を敷設することで、開放的かつ潤いのある空間を演出します。
- ・ 芝生の管理ルールを定め、維持管理に努めます。
- ・ 広場とスポーツ施設の間には、緩衝帯としての緑を配置することにより、ビスタ景に配慮します。

## ■ 舗装イメージ



① 石張り舗装



② コンクリート系ブロック舗装

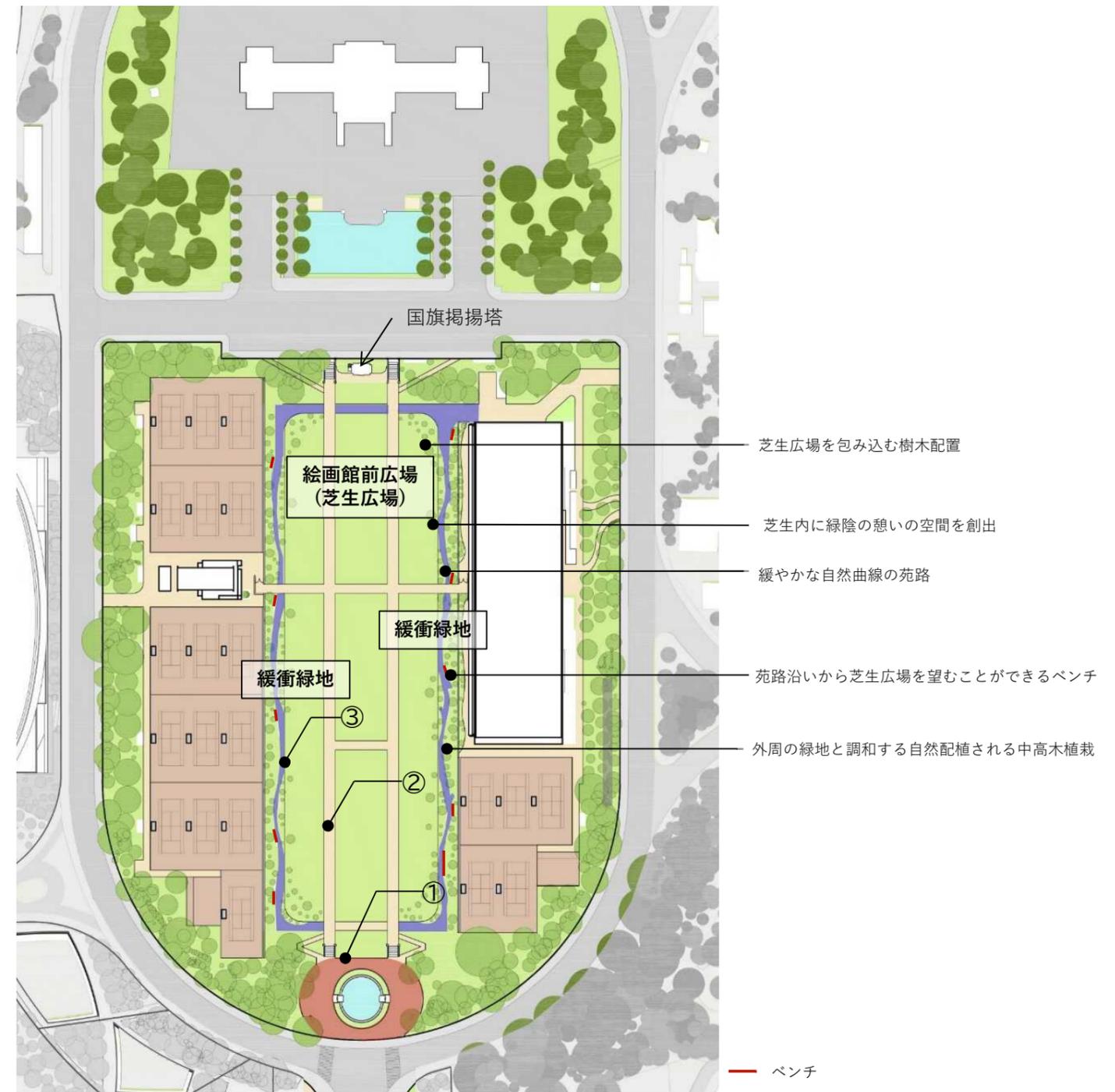


③ 土系舗装

① 敷地南側の丸池周りは既存のベンチや水景の素材と合わせて石張り舗装とし、歴史や品格を感じられる場として設えます。

② 絵画館前広場の梯子状苑路および屋外テニスコート周辺は景観性と補修性（メンテナンス性）をもったコンクリート系ブロック舗装とします。

③ 芝生広場周辺は創建時のイメージに寄り添うとともに、芝生や植栽等自然景観とも調和する土系舗装とします。



6：絵画館前広場の利活用促進

STEP3完成予想イメージパース

■ 安らぎと憩いを創出する絵画館前広場

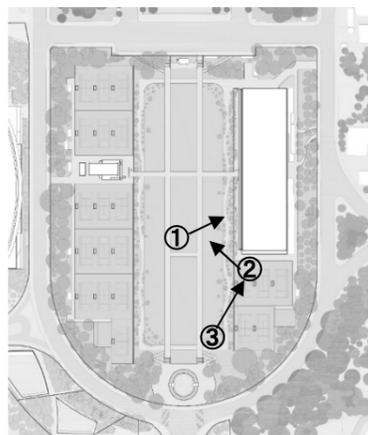
・ 絵画館前広場は、日常的には散歩や休憩などの安らぎや憩いの場として活用することにより、都市に安らぎと活力を与える場を創出していきます。



①アングル

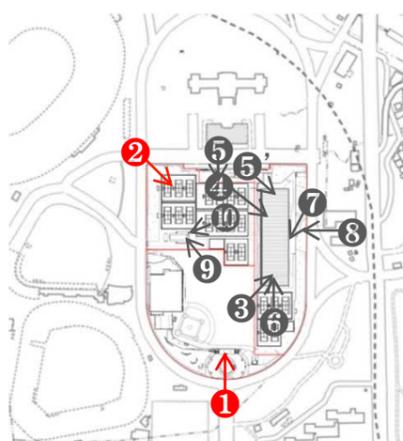


②アングル



③アングル

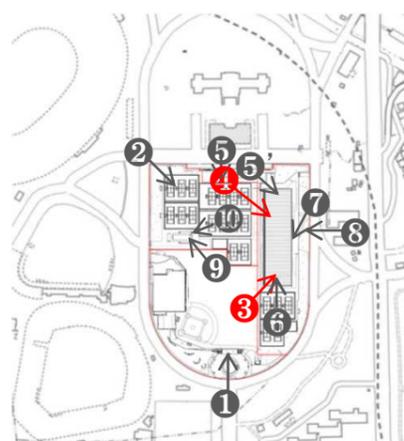
※芝生の管理ルールを定め、維持管理に努めます。



出典: 国土地理院地図

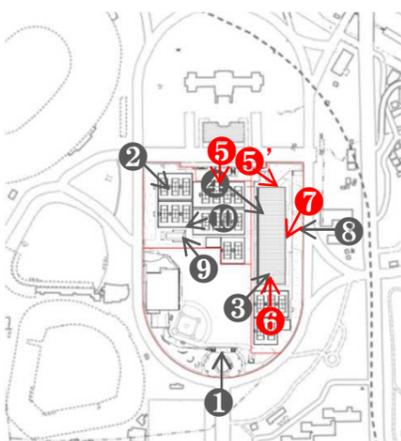
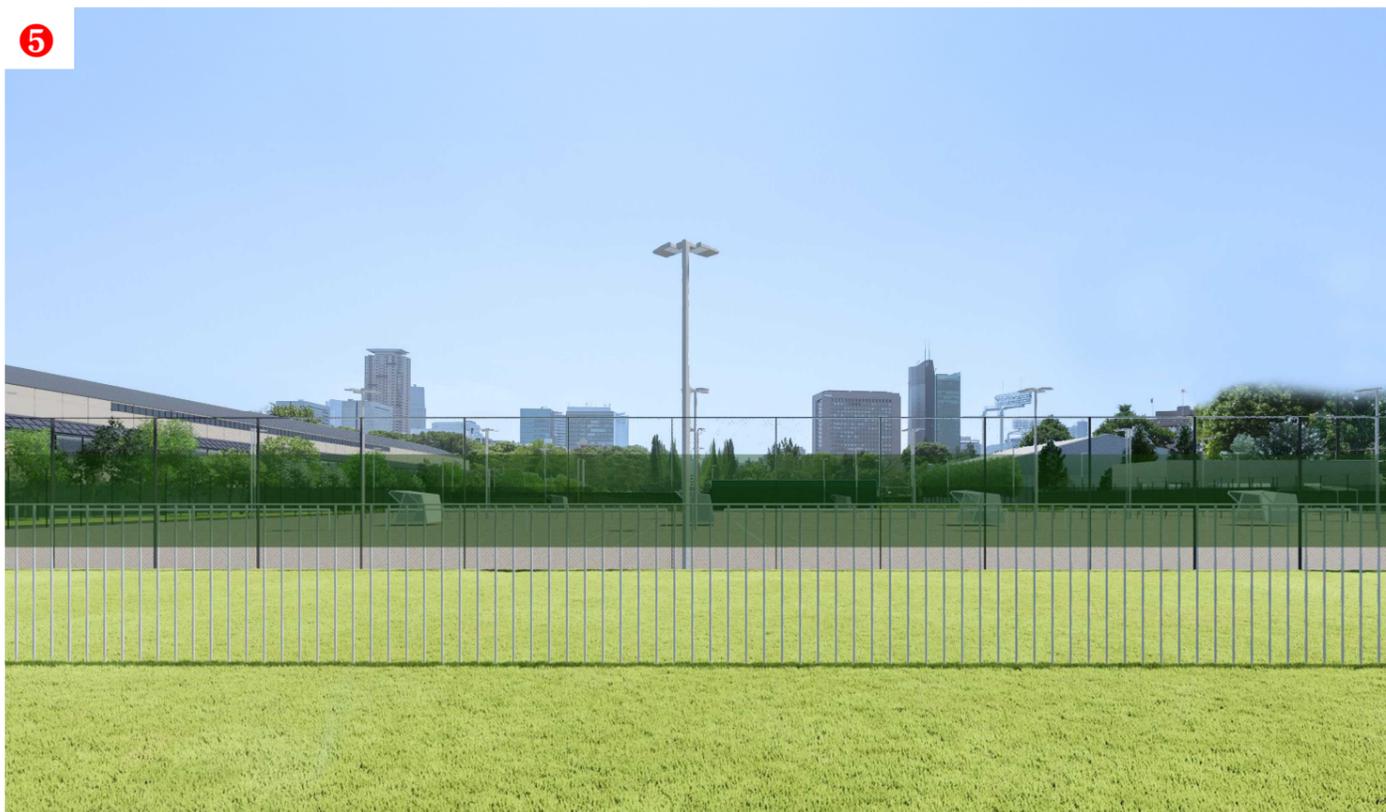
[凡例]

● テニスコートの眺望点



出典: 国土地理院地図

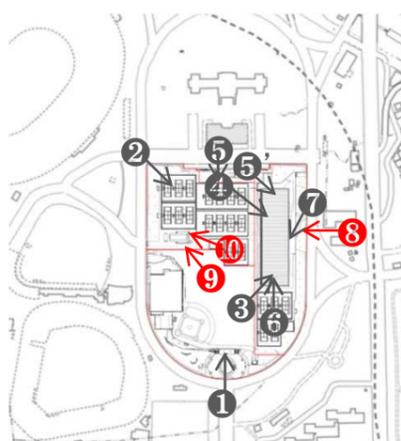
[凡例]  
● テニスコートの眺望点



出典: 国土地理院地図

- [凡例]  
● テニスコートの眺望点



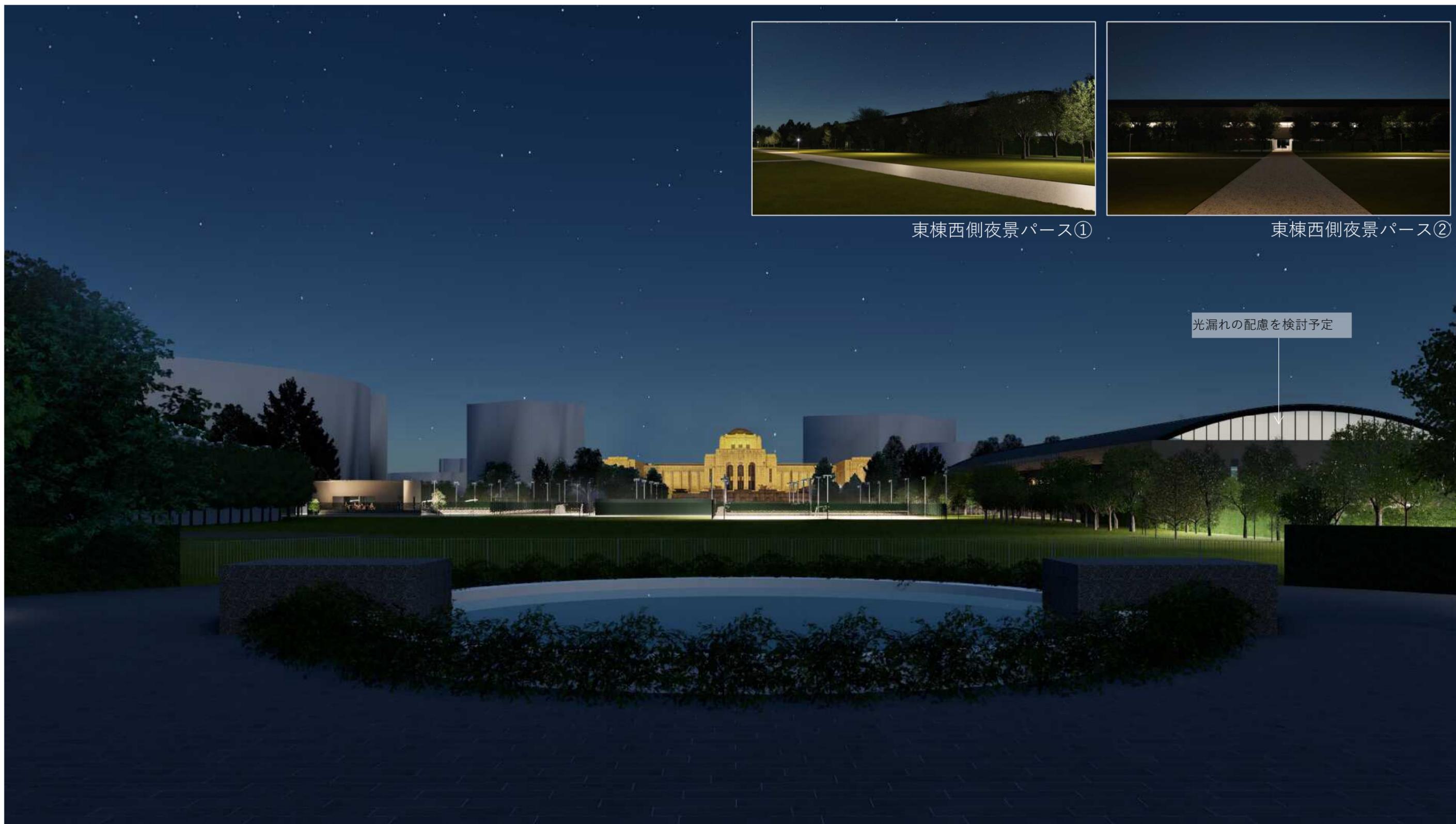


出典: 国土地理院地図

[凡例]  
 ● テニスコートの眺望点



※今後関係者との協議及び検討の深度化により変更となる可能性があります。



東棟西側夜景パース①



東棟西側夜景パース②

光漏れの配慮を検討予定

